

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

< 検証結果を示す記述 >
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント	平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p>< 中期目標 1 > 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第 3 期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。 < 全学教育改革推進機構 ></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・細分化した計画には「進捗不十分」があるが、予定している文科省提出年度計画の取組は少しずつ進んでいると思われる。しかしながら、当該計画では「平成 30 年度までに整備し、周知・運用する」としているが、それが達成できたとするエビデンスはあるのか、明らかでない ・<u>それぞれの年度計画は中期目標を達成するための方策であり、其々の計画の取組・成果によって中期目標がどの程度達成できたのかを示さなければならない。そこで、其々の計画については、中期目標の達成にどのように寄与したのか、この点から進捗状況を記載いただきたい（以下同様）</u> ・<u>全体として、現時点では各部局における検討や作業がどの程度まで進捗しているのかをデータあるいは具体的結果によって確認することができない（保留）</u> ・平成 30 年度中に個々の科目の目標、科目配置、科目間連携などが、3つのポリシーに照らして適切か、検証し、<u>その結果、改善した点があれば最終報告では提示できるようにしていただきたい</u>。また、教育の国際通用性の検証結果についても、内部質保証プログラムの整備と共に更に何で持って国際通用性があると言えるか具体的な事項が提示できるようになると良い（進捗不十分）</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント） ・「体系的で国際通用性を有する教育課程」の意味が未定義なままであることが、いろいろな戸惑いをもたらしているように思える。その意味を全学的なコンセンサスとして早急に確立させ、部局に伝え、そうした教育課程になっているかの検証と報告を求めているかどうか。 (例) 「教育課程は3つのポリシー（*）を踏まえて設計されており、それを構成する科目とその年次配置は、各専門分野の特性に照らして適切である（**）。 (*）ポリシーがステークホルダーの要請を踏まえて策定されていることは大前提。 (**）適切性は、ベンチマーキング（国際的に標準的なプログラムや他大学の課程との比較など）、ステークホルダーへのアンケート、外部評価、第三者機関による認証（に向けた準備）など、いずれかの方法により検証する。 ※29 年度に策定した「福井大学における学部の国際通用性を高める取り組み」は、本来、「体系的で国際通用性を有する教育課程」の意味を明確にしたうえで策定するべきであったが、その意味は先送りして具体的な取組を先に決めた格好になっていた。 ・「個々の科目の目標等」が DP 等に照らして適切であるか、各部局に検証・報告を求めることが必要ではないか。 (例)：シラバスに明記されているか、DP 等に謳われていることと整合性があるか、目標に掲げていても試験等で“測定していない”ということはないか。 ・内部質保証については、第 3 サイクルの認証評価を受けた大学が内部質保証に関して受けた指摘（※）を踏まえて、「何をすべきか」を部局に伝える。特に、学生が教育改善の輪の</p>

				<p>中に入っている仕組みの整備はやったほうがよいのではないか。全学的には、高等教育推進センターの中に、各学部の学生代表を委員として含む部門を作るくらいのことをやってもよいのでは。</p> <p>(*) 大学基準協会が実施した分についてはあるが、以下が参考になる。</p> <p>https://www.daigaku23.com/entry/2019/03/27/120000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体系的で国際通用性を有する教育課程」の場合と同様に、「質の高い学位プログラム」の意味が定まっていないことが、様々な場面で計画実行の妨げになっているのではないか。大学として「質の高い学位プログラム」の意味を提示するのが早道ではないだろうか。 （例）「質の高い学位プログラム」＝「体系的で国際通用性を有する教育課程」＋「改善の仕組み（整備され、実働し、成果をあげていること）」＋「必要に応じて部局で定める＋αの要件」 ・現状では「体系的で国際通用性を有する教育課程」が整備されたかどうかの検証が行われた結果、どのような評価がなされ、今後各部局でどのような対応がなされることになったのかが確認できない。次年度にはこの点を明確にしていきたい。（保留） ・全体に資料データとしてまとめられていないので、中間段階でも良いので、評価指標となる資料データや各取組みの検討状況、検証結果、改善内容等を各項目の成果として資料として提示できるようにお願いしたい。
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・一部の各部局ではポリシーの見直しの検討が進んでおり、継続的な見直しが行われている ・ポリシーがどの程度周知されているかを確認の上、最終的には全員が周知しているよう、その方法を早急に検討・実施頂きたい ・大学院の3ポリシーの作成を急いでいただ </p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・工学研究科において、改組後のカリキュラム・ポリシーと、ディプロマ・ポリシーを策定する。（進捗不十分） ・ポリシーの周知状況を改善するため、各学科の掲示板に3ポリシー（CP と DP だけでもよいかも）を掲示する。（進捗不十分） </p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>き、少なくとも来年度中に策定していただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院課程の 3 ポリシーの素案を今年度末までに策定するとされているが、進捗状況が必ずしも明らかではない。（保留） ・<u>年度末の検証時までには各部局におけるポリシーの周知状況、内容と一体性の検証結果について明記できるようにしていただきたい</u>（保留） ・三つのポリシーの認知度の検証に併せ、三つのポリシーを何で測るのか検証方法を定め、検証を進めていただく必要がある。今後、<u>更に検討進めていただきたい</u>。（例えば DP は、身につけた能力を何で測るのか。CP は、教育方法や教育評価をどうやって測るのか、AP は AP、CP、DP との一体性を何で確認するのかなど、いつ、どの学生アンケート調査等で調査するかなど。）（進捗不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリシーの認知度が記載されていない部局がある。また、認知度が十分ではない部局については、今後どのようにして認知度を上げるのか、具体的に記載していただきたい。（進捗不十分） ・大学院のポリシー作成については、平成 30 年度末までに事実上何も進行していないことから、対応を急ぐ必要がある。（進捗不十分） ・3 ポリシーの認知度が低いように思われるため、入学生、学生等への改善の取り組みが実施でき、成果がデータとして抽出できると良い。 ・3 ポリシーの検証方法が定まっていないため、検証や検討が進んでいないように思われる。また、改組予定の大学院、新設大学院の三ポリシーについても、現在のポリシーを検証等した結果を基に見直し等が行われたことが確認できるようにして、早い時期に公表できるように引き続き検討を進めていただきたい。
	<p>1-①-2 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部局の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-2-1 (1-①-2-1-1~7)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画では個々の科目の目標などを全学的に確認しているが、これに関する取組がなされていない。また、その「妥当性」はどのように確認するのか、具体的な対応は定まっているのか？（進捗不十分） ・体系性の基盤となるカリキュラムマップやツリーは各学部で整備できているのか、確認願いたい。また、これに関連して「体系性」を示すための要件は何か、一覧にできればよい（それぞれ教育課程はそれを満たしていることを示すことができる）（進捗不十分） ・計画では、平成 30 年度末時点で体系的で国際通用性を有する教育課程の整備を完了するとなっているが、現時点では完了できるのか必ずしも明らかではない（保留） ・「個々の科目の目標、科目配置、科目間連携などの妥当性を全学的に確認する」となって 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体系的で国際通用性を有する教育課程」の意味について全学方針が示されたら、それに沿う教育課程になっているか検証を行う。全学方針が示されない場合、「体系的で国際通用性を有する教育課程」の意味を部局で定め、それにのっとりて検証を行う。（進捗不十分） ・看護科では、イギリスの大学から人を招いてカリキュラムの国際基準に照らしての評価を受けたことを、1-①-2-1-4 に書いてはどうか（3-②-1-1-2 に書いてある）。 ・「国際通用性を有する教育課程に係る教育成果」の具体的内容やデータと、「多面的かつ厳格な成績評価のガイドラインの実用化」をどのようにして行い、どのような検証結果になったのかを記載していただきたい。 ・「個々の科目の目標、科目配置、科目間連携などの妥当性」を全学的にどのような方法で確

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>いるが、それをどのようにして行うのかを明確にしていきたい（保留）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の年度計画にある三つのポリシーに基づく、個々の科目毎の目標、科目配置、科目間の連携などの妥当性・適切性の検証を全学的に進めていただきたい 	<p>認したのかを記載していただきたい。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的にカリキュラムマップやツリーを公表し、成果として認知度の確認やカリキュラム評価アンケート等の対象事項に加え、体系的・国際通用性の検証結果が提示できると良い。
	<p>1-①-3 教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3年毎）等を実施する。</p> <p><副学長（教育・学生）> <副学長（国際）></p>	<p>1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価でも求められる「内部質保証システム」を整備するよう（遅くとも平成31年度中）、検討を進めていただきたい（進捗不十分） ・<u>本年度のベンチマーキングは年度末に行われると窺っているが、その成果を全学に還元するようにしていただきたい(実際に還元できたのかその成果を明示できるようにしていただきたい)</u>（進捗不十分） ・<u>「依頼を行った」「検討を開始した」あるいは「取り組みを行っている」という部局が多く、進捗状況が必ずしも明らかではない。年度末には、それらの結果を具体的に明記していただきたい</u>（保留） ・ベンチマーキングを実施したことは記述されているが、それによる改善の具体的内容が書かれていない。<u>年度末にはこの点を記述していただきたい</u>（保留） ・内部質保証の制度、組織作りを進めていただいているかと思いますが、年度内に内部質保証システムの整備を進めていただきたい 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証のしかたについて全学的な方針が示されたら、それに従って内部質保証を動かし、具体的な改善の実績をあげておく。特に、学生を教育関連の委員会などの委員に入れ、学生の声を反映した具体的な改善の実績をあげられるとよいのではないか。（進捗不十分） ・ベンチマーキングについては、以下を A4 一枚以内で報告するなど、「やりっぱなし」にならないようにしてはどうか。（報告先は？） <ol style="list-style-type: none"> 1.本学の教育内容・体制のうち、先方に劣らないもの。 2.本学の教育内容・体制のうち、先方と比べ、劣っており、改善が望ましいもの。 3.ベンチマーキングの結果、具体的に改善した、あるいは改善を前提に議論が進んでいるもの。 <p>（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護科では、イギリスの大学から人を招いてカリキュラムの国際基準に照らしての評価を受けたことを、1-①-3-1-4 にも書いてはどうか。（進捗不十分） ・「米国アルバーノ大学においてベンチマークを実施し、本学での教務マネジメント改革につなげた」とあるが、どのような点でつなげたのか成果を具体的に記載していただきたい。 ・進捗率が不十分な部局については、今後取り組みを強化していただきたい。（保留） ・年度末に決定された「全学の教育に係る内部

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>質保証を統括する組織の整備及び検証方法（教学 IR 機能の活用を含む）の作成」について、引き続き、体制の整備を進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月に実施したベンチマーキングの実施状況と成果を資料として提示できるようにしていただけると良い。
<p>1-①-4 教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。</p> <p><教育学研究科> <工学研究科></p>	<p>1-①-4-1 (1-①-4-1-1~2)</p>	<p>(検証結果) 保留</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	
		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議は進められているものの、現時点では工学研究科の進捗状況が 0%となっていることから、<u>年度末には確実に 100%にできるよう検討を加速していただきたい</u>（保留） ・最終的に「質の高い学位プログラム」とは何を意味するのかを具体的かつ明確にできることを念頭に検討を進めていただきたい（保留） ・進捗率 0%となっているが、改組に向け順調に進捗しているという理解でよろしいか？記載内容だけでわからない 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「質の高い学位プログラム」の意味が全学的に示されたら、それにのっとりて検証を行う。 ・工学研究科では、改組後の CP と DP を策定する。 ・協議を行った結果について具体的に記載いただきたい。 ・現在検討が進められている段階だと思われるが、改組等によりこれまで以上に質の高い学位プログラムが実現できることの裏付け資料が提示できるようにしていただきたい。（保留） 	
<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	
		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・授業評価委員会において各部署の検証結果等を確認しているが、その確認結果をどのように提示すればよいかを検討いただきたい(涵養状況を全学的にも確認していることを示せる資料としたい) ・<u>年度末には検証結果をデータ等で具体的に示せるよう検証を進めていただきたい</u> ・能力の涵養状況と人材の輩出（育成）状況の検証方法について、引き続き全学または各学部で検討を進めていただき、明確に提示できるようにお願いしたい。具体的な到達目標を達成したかどうかを検証データ(教員による 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 2 期終了時よりも〇〇は△△だけ向上した」という定量的な検証結果が得られるように検証が進んでいるのか、必ずしも読み取れないため、保留とする。（保留） ・卒業生に対するアンケート（各部署）、就職先に対するアンケート（キャリア支援室）を、上の「 」のような結果が得られるよう、内容を工夫して実施する。（保留） ・次年度には能力等の涵養状況をどのような基準に基づいてどのようなデータによって検証したのかを明確にし、データの数値を記載していただきたい。 	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>評価、卒業論文などの長期にわたる活動全体の評価、国家試験などの外部指標による評価など）として用意できると良い。何をどのように用意すれば良いか早期に検討していただいき、さらに検証を進めていただきたい</p>	<p>・能力の涵養状況と人材の輩出（育成）状況の検証方法について、各学部・研究科単位での検討が進められているが、全学的に資料として提示できるようにお願いしたい。具体的な到達目標を達成したかどうかを検証するために、教員による評価、課題探求型授業や卒業論文などの長期にわたる活動全体の評価や成果、国家試験などの外部指標による評価結果などの資料が全学的に用意できると良い。</p>
1-②	<p>高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>			<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で予定されている「修得状況の全学的調査」及び「教育方法の検証と改善」がなされていない。本年度後半で実施できるのか明らかでない（進捗不十分） ・アクティブ・ラーニングの導入等は一定程度進んでいるが、導入率やその効果の検証結果が現時点では必ずしも確認できない（保留） ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況などの検証結果を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で予定されている「修得状況の全学的調査」及び「教育方法の検証と改善」については、教育学部の1-②-1-1-3、1-②-2-1、1-②-3-1-2を100%にさせていただくことが必要ではないか。（進捗不十分） ・学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成が進んでいるのか、読み取れない。 ・中間評価時と大きな変化がなく、アクティブ・ラーニング科目の比率は上昇しているものの、学習効果の検証結果が必ずしも説得的なデータによって示されていない。（保留） ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況などの検証結果を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい。
	1-②-1	<p>教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。</p> <p>特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	1-②-1-1 (1-②-1-1-1～6)	<p>（検証結果） 進捗状況は概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの導入状況は一部の学部で示されているが、これは当該計画のKPIであり、その状況は随時把握いただき 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学部の1-②-1-1-3が100%ではない。（文科省提出年度計画に書かれていることに照らし、「十分」と言えるレベルにする。）

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>たい（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>年度計画で予定している、学習効果の検証、教育効果の高い授業方法の導入状況の調査がなされておらず、年度後半で実施していただきたい</u>（進捗不十分） ・<u>アクティブ・ラーニングの導入率や学習効果の検証結果について記述していない部局については、年度末には現時点での結果について具体的に記述していただきたい</u> 	<p>（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングを取り入れた科目の比率を記載していない部局については記載していただきたい。 ・アクティブ・ラーニングの学習効果に関する検証結果のデータを記載していただきたい。その際、可能であれば教員や学生に対するアンケート結果等の主観的データだけではなく、客観的データがあれば、それも記載していただきたい。 ・アクティブ・ラーニングの導入状況は一部導入も含め、学部では6割は達成できるようなが、今後は、さらにその成果や効果について、代表的な授業内容等を例に挙げるなど、検証結果を資料として提示していただきたい。
1-②-2 教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。 ＜教育学部＞	1-②-2-1 1-②-2-2	（検証結果） 進捗状況は概ね良好である	（検証結果） 進捗状況は概ね良好である	
		（コメント） ・来年度の法人評価に向けて、目的とする能力の涵養状況をどのように検証するのか定め、それに基づいて検証を進めていただきたい ・「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成状況の検証方法」がどのように検討されているのか必ずしも明らかではない（保留） ・プロジェクト型授業の導入実績はまだないか？今後、記載していただくと良い。また今後の擬態的な計画について提示できるようにしていただきたい。	（コメント） ・アクティブラーニングの導入が進んでいることと、プロジェクト型授業を中心に置いた教育課程が検討されていることはわかったが、「学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成」は着実に進んでいるのだろうか。 ・「学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力」の育成状況をどのようにして検証するのか、依然として明らかではない。（保留） ・学生による学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実践例や成果が資料として提示できないか。	
1-②-3 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。 ＜全学教育改革推進機構＞	1-②-3-1 (1-②-3-1-1～5)	（検証結果） 進捗状況は概ね良好である	（検証結果） 進捗状況は概ね良好である	
		（コメント） ・各部局では修得状況について様々な調査がなされているが、本年度後半ではそれに基づく	（コメント） ・能力等の修得状況を客観的データによって示している部局がある一方、検証方法を示して	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>教育方法の改善実績を提示できるようにしていただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>年度末には能力等の修得状況の検証結果に関するデータ等を記述していただきたい</u> ・既に実施されている内容で、高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などについて、在学生・卒業生の修得状況を検証した取組みや改組後改善された点とその成果等を掲載できると良い 	<p>いない部局や結果が必ずしも向上していない部局が見受けられるので、次年度はそれらの点を改善し、データを示せるようにしていただきたい。（保留）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学生・卒業生の該当の取組（科目）についての修得状況などの検証した結果やその成果等を資料として提示していただきたい。 	
<p>1-③</p>	<p>学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average（GPA）制度（平成29年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が不十分である</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が不十分である</p>	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の主要KPIは「学生の授業外学修時間」であり、随時モニターしていただきたい ・米国型 GPA 制度の導入について計画が遅れており、実際に全学的に導入できるのかについて結論を出すべきである（進捗不十分） ・全学的に遅れている多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備及び「国際通用性のある厳格な成績評価」の検証に向け、早急に検討を進めていただきたい（進捗不十分） 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業外学修時間の1.5倍以上向上」の達成が危うい。（進捗不十分） ・文科省に提出した計画のうち（GPA制度について）「国内外の動向を調査する組織的な取組み」への対応はできているのか。（進捗不十分） ・文科省に提出した計画のうち「多面的かつ厳格な成績評価のガイドラインに沿って、各学部等において厳格な成績評価を行う」について、ガイドラインに沿っているかどうかの検証がなされたところがあるが、結果はどうだったのか。特に、ガイドラインの中の「同じ科目が複数のクラスに分けて開講される場合、成績評価の基準や方法に大きな差が生じないように、担当教員間で協議し調整を図って下さい。」について、本当に何も問題はなかったのだろうか？（進捗不十分） ・授業外学修時間の向上に関するデータを記載していただきたい。（進捗不十分） ・中期目標4年目評価の際に、米国型 GPA 制度の導入の遅れをどのように説明するのかを検討していただきたい。（進捗不十分） ・学生の授業外学修時間の数値がどうしてもアンケート調査結果では上がってこない状況であるので調査方法を含め、何か改善策が必要である。（進捗不十分） ・米国型 GPA 制度の導入について導入の可否も含め、どう対応するか、どこかで全学的に結

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>論を出さないといけない時期が来ている。(進捗不十分)</p>
<p>1-③-1 図書館、ICT 環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。 <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>1-③-1-1 (1-③-1-1-1~7)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初予定した年度計画では「整備状況及び満足度の調査」を実施するとしているが、本年度後半で実施するのか？ ・一部の部局については抽象的な記述にとどまっていることから、年度末には満足度調査等に基づいた改善をどのように行ったのかを具体的に記述できるようにしていただきたい（保留） ・修学環境の整備及び改善状況等について、毎年度、実績を資料としてまとめていただきたい。また改善後の成果や学生の満足度を集約できると良い</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント) ・学生に、改善の状況を積極的にアピールすることが必要ではないだろうか。例えば、「〇〇改善しました！」といった掲示を出すなど。やったことをもっと宣伝したほうがよい。幸い、LMS での情報伝達が普及してきたため、掲示板が以前に比べスカスカである。掲示板への掲示はその分、目を引く。 ・「整備状況及び満足度調査」の結果を記載していただきたい。 ・修学環境の整備及び改善状況等について、各年度の取組み実績を資料としてまとめ、提示していただきたい。また改善後の成果や学生の満足度が測れると良い。</p>	
<p>1-③-2 学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第 3 期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の 1.5 倍以上に向上させる。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初予定した年度計画では、授業時間外学修時間の調査を実施するとしているが、本年度後半で実施するのか？ ・自主的学習活動を促す履修指導を積極的に行うとしているが、その実施状況や成果をどのようにまとめるか検討いただきたい。また、シラバスでの 100% 記載は成果ではあるが、学生がそれをどのように活用したのかがポイントであり、それを調査することも必要と思われる ・年度末には、各部局において現時点で授業外学習時間がどの程度向上しているかについてのデータを記述していただきたい ・学生生活実態調査等の学生調査から思うような授業外学習時間数を導き出すことができていないようなので、できるだけ明確な調査結果となるように調査方法を工夫できると</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・授業外学修時間の 1.5 倍以上向上が危うい学部については、以下の 1~4 を行う。(進捗不十分) 1.宿題の頻度が少ない授業では、頻度を高める。 2.授業外学修時間の問い方を工夫する。 「家に帰って机に向かってノートを広げて」という狭いイメージだけで捉えないよう注意し、以下全て該当することを伝える。 ・ノート、資料、教科書を読んだ・目を通した・ざっと眺めた時間（例）授業前後に、友人にノートを見せてもらって板書しそこなった部分を書き写す時間（例）授業前後に、友人とあるいは一人でノート・資料・教科書の内容について雑談・思考する時間 ・課題に取り組んだ時間（課題にアクセス</p>	

				<p>良い</p>	<p>し、指示や設問を理解し、思考し、解答を完了するまでのトータルな時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容（すでに学んだ内容、これから学ぶ内容）について (i)生協でご飯食べながら、あるいは道を歩きながら、友人と「あーだよね、こーだよね」と話した時間、あるいは一人で思いだしたり考えたりする時間 (ii)ネットで検索した時間 (iii)教員・友人に質問した時間 (iv)授業時間外に自習室や計算機室等で自習した時間 ・資格試験のための勉強時間のうち、科目の理解を深めることにつながっている時間 <p>3.授業外学修時間のここ数年の変化をグラフで示したものを掲示し、「目標の〇〇時間まであと△△時間！皆さん頑張りましょう」という感じの掲示を出して、学生に協力を求める（ただし、時間の絶対値は恥ずかしくて出せないのも、工夫必要）。学生は、こうした目標があることを知らないのではないか。</p> <p>4.宿題、実験レポート、復習、予習などに分けて時間を尋ねる。こうする方がより正確に思い出し、時間は増えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修時間がどのように変化しているのかがほとんどの部局に関して確認できないので、データを記載していただきたい。また、授業外学習時間が必ずしも向上していない部局については、改善に努めていただきたい。（保留） ・学生の授業外学習時間のアンケート調査結果が思ったように数値（時間数）が上がってこないように感じられる。学生との認識の相違があるものと思われるので、何か良い改善策はないか検討が必要である。
		<p>1-③-3 学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p>	<p>1-③-3-1 (1-③-3-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><カリキュラム・授業評価委員会></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定された取組について、「～準備を進めている」としているが、本年度後半で具体的に実施できるのか明らかでない（進捗不十分） ・米国型 GPA 制度について、当初「平成 29 年度までに導入」としていたが、実際は達成できていない。そこで、これに代わる何らかの成果が必要であり、どのような成果を出すのか具体的な検討を進めていただきたい(進捗不十分) ・「国際通用性のある厳格な成績評価」とはどのようなものか、難しいとは思いますが、具体的にどのようなものであるか、提示していただきたい（進捗不十分） ・「国際地域学部における米国型 GPA 制度の導入成果と検証結果について、全学的に情報を共有するための報告会」を年度末までに<u>確実に開催し、他部局への導入の是非について結論を出していただきたい</u>（進捗不十分） ・多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備及び「国際通用性のある厳格な成績評価」の検証を進めていただきたい（進捗不十分） 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率が 100%でない学部がある。（進捗不十分） ・全学的に、「国際通用性のある厳格な成績評価」の最低ライン＝「多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン沿った成績評価」と定めてはどうか。 ・米国型 GPA 制度の導入が計画に比べて大きく遅れている。平成 31 年度に導入する旨決定したとあるが、中期目標 4 年目評価の際には、添付資料として学内規程をつけなければならない可能性がある。規程改正にすぐに着手することが困難で、この制度の導入になお問題があるのであれば、国際地域学部の GPA を見直すことも含めて早急に検討し、全学で統一的な GPA を平成 31 年度中に正式に導入できるようにしていただきたい。（進捗不十分） ・「厳格な成績評価」とは具体的に何を意味するのかを全学的に再確認する必要がある。単にシラバスに評価基準を記載しているといったことではなく、成績評価のプロセスや結果から厳格に評価が行われていることを確認できる仕組みが必要ではないか。（進捗不十分） ・国際地域学部の GPA 制度の各学部への導入について検討することになっているので、現状の制度の見直しを含め、全学的な検討を引き続き進めていただきたい。（進捗不十分） ・全学年で GPA 制度が運用されていない学部については、GPA 制度の完全導入がされるように検討していただきたい。（進捗不十分）
	<p>1-④ 教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 <教育学研究科></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・各年度の取組状況を資料として、提示できるようにしていただきたい。</p>
	<p>1-④-1 教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施</p>	<p>1-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<教職大学院>		(コメント)	(コメント)
	1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 <教職大学院>	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が良好である	(検証結果) 進捗状況が良好である
			(コメント) ・3 大学合同での研究科委員会開催以外に他大学と連携した教職大学院の共同での具体的な取り組み実績を記載していただきたい	(コメント)
	1-④-3 国内外のネットワークの拡大 <教職大学院>	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が良好である
			(コメント) ・毎年度の国内外ネットワークへの参加状況が分かるようにしていただきたい	(コメント)
	1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 <教職大学院>	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
			(コメント) ・ <u>年度末には、つくばの教職員支援機構と福井県教育研究所を結ぶ教員研修の方法について検討がどのように進展したのか、具体的に記載していただきたい</u>	(コメント) ・教職員支援機構と福井県教育研究所を結ぶ教員研修の方法についての検討がどのように進展したのか、具体的に記載していただきたい。
1-⑤	子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 <教育学研究科>		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が不十分である
			(コメント) ・ <u>当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、その成果は法人評価に大きく寄与するものであり、その十分な成果を期待したい。そのため、成果としてどのようなエビデンスが必要か、具体的に検討いただきたい</u>	(コメント) ・「子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築」、「発達障害についての教員養成カリキュラムの改善」、「インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示」については、計画

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画に予定された取組がこれまでのところ十分にはなされていない。 	<p>の達成度が十分とはいえないように思える。</p> <p>(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医教連携の教育研究体制」の内容とその成果が必ずしも明らかになっていない。(保留) ・カリキュラム改訂に関する計画が遅れている。(保留) ・全体に医教連携体制の整備状況について、資料がなく、内容が不確かであるため、整備状況がわかる資料の提示と具体的な参加人数等の数値が示せるように資料として提示できるようにお願いしたい。
1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 <教職大学院>	1-⑤-1-1	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>保留</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p>
		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築」をあげているが、これまでの成果からでは教育研究体制が構築されたのか明らかでない。どのような教育体制が構築されたら当該計画が達成されたとするのか、検討いただきたい(進捗不十分) ・<u>年度末には、話題提供に参加したセンター教員人数、回数、話題提供したことによる具体的な成果を記載願いたい</u> (保留) ・医教連携の教育体制の構築がどのように進展しつつあるかを記載願いたい (保留) 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「・・・に関する医教連携の教育研究体制を構築」という計画に照らすと、1 回の講義の実施で十分なのだろうか。(進捗不十分) ・子どものこころの発達研究センター教員が教育学部学生で講義と学生指導を行った結果、どのような成果が得られたのかを記載していただきたい。(保留) ・話題提供に参加したセンター教員人数、回数、学生数、話題提供したことによる具体的な成果や実績を資料として提示できるようにお願いしたい。
1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 <教職大学院>	1-⑤-2-1	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p>
		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「教員養成カリキュラム改訂」とおこなうとしているが、これまでの取組ではこれが実現できるのか明らかでない(進捗不十分) ・年度末にはカリキュラム改訂を完了できるようにしていただきたい ・カリキュラムが改善されたことがわかる実績 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率が中間の時点の 50%のままである。(進捗不十分) ・カリキュラム改訂をできる限り早く完了していただきたい。(進捗不十分) ・実際の計画が進んでいないのではないか。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			とその成果を提示できるようにしていただきたい	
	1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 ＜教職大学院＞	1-⑤-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
			(コメント) ・特別支援教育コーディネーター検証を実施しているが、当該研修の開催数、研修者からの意見聴取結果等、成果を示していただきたい ・ <u>年度末にはコーディネーター研修の実施に関する具体的な成果を記載していただきたい</u>	(コメント) ・「入学時相談」の実施状況が不明。 ・医教連携による特別支援教育コーディネーター研修の参加者数や実績を資料として提示できるようにお願いしたい。
	1-⑤-4 いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 ＜子どものこころの発達研究センター＞	1-⑤-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
			(コメント) ・当該計画による事業の推進の結果どのような成果が得られるのか、計画が達成できたとするエビデンスは何か、検討いただきたい ・ <u>年度末には、ライフパートナー事業についての具体的なデータや成果を記載することが望ましい</u>	(コメント) ・「子どものこころ診療部とライフパートナーとで連携し、いじめや不登校に悩む児童への対応を行う」の実施状況が不明。 ・子どものこころ診療部とライフパートナーとの連携によって具体的にどのような成果が得られたかについて記載していただきたい。
	1-⑤-5 インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 ＜教職大学院＞	1-⑤-5-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 保留
			(コメント) ・当初年度計画では「夏期における公開講座」を実施しているが、実施されていない（進捗不十分） ・当該計画では「養護教諭研修システムの先進的モデル提示」が達成点であるが、それに向けてどの程度進捗しているのか定かでない（進捗不十分） ・「養護教諭研修システムの先進的モデルの提示」に向けての進捗状況を記載していただきたい	(コメント) ・11/17 の講演会の実施だけで「福井県内の養護教諭の研修」を行ったことになるのだろうか？（保留） ・「擁護教諭研修システムの先進的モデルの提示」の完了の見通しを示していただきたい。（保留） ・「養護教諭研修システムの先進的モデルの提示」が現時点での検討状況を資料として提示できないか。
	1-⑥ 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が不十分である

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。</p> <p>さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p> <p><国際地域学部></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「地域の企業や自治体の協力」がポイントとなるが、協力企業等は拡大しているのか、示していただきたい ・当該計画の目的は「地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成する」であり、その達成状況はどのくらいそのような人材が育成できたかがエビデンスとなる。この点のデータをどのように収集するのか、検討いただきたい ・各部局での個別的な取り組みはなされているものの、「他部局へ随時適用する」という点に関して進捗が見られない（進捗不十分） ・各部局における学外組織と連携した取り組みをまとめていただきたい。また、その成果として、学生及び関係者からの満足度等の評価について、提示できるようにしていただきたい 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に、取組や成果が年度計画に書かれたことに合致しているのか、十分には読み取れない。（保留） ・平成 31 年度末には国際地域学部の学年進行が完了することから、その時点で各計画に関するエビデンスを示せるように十分なデータ収集と分析を行っていただきたい。（進捗不十分） ・各学部で取り組んでいる探求型能動的学修について、年度毎に実施状況（対象者数を含む）がわかるように授業科目別に学外組織との連携状況とその成果（関係者からの評価を含む）を資料としてまとめていただきたい。
	<p>1-⑥-1 国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。</p> <p><国際地域学部></p>	<p>1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1～4)</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予定した年度計画は概ね実施されているが、全学的な英語教育体制の整備は進んでいるのか、明らかでない。さらに、これに関連し、英語教育の改善は図られたのか明らかでない ・「探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施」に対応した成果をどのように提示するのか検討いただきたい ・<u>年度末には「英語教育の改善」がどのように行われたのかを記載していただきたい</u>（保留） ・「英語教育についての全学的な方針の策定」が今年度中に完了するかどうか不確かであり、この点を推進していただきたい。（保留） 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-⑥-1-1-2 では、「初年次からの徹底した英語教育の改善」の具体的な内容が見えない。また、課題探求プロジェクトについて協議会が実施されたことはわかるが、計画にある「企業や自治体からの評価と検証を行う」がなされたのか、読み取れない。（保留） ・1-⑥-1-1-3 では、「初年次からの徹底した英語教育の改善」の具体的な内容が見えない。（保留） ・「英語教育についての全学的な方針の策定」や「全学的な体制の整備」に遅れが見られる。（進捗不十分） ・地域課題プロジェクトに対する企業や自治体からの評価の内容、検討の結果及びその成果を示す具体的なデータ記載していただきたい。（進捗不十分） ・英語教育についての全学的な方針の策定が進

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				んでいないようなので検討を始めていただきたい。その際に英語教育の改善内容等を考慮していただく必要があるかと思っておりますので、これまでの取組状況等を明らかにして資料としてまとめていただきたい。
	1-⑥-2 その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜全学教育改革推進機構＞ ＜国際地域学部＞	1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1～5)	(検証結果) 進捗状況が不十分である	(検証結果) 進捗状況が不十分である
			(コメント) ・国際地域学部以外の部局でも関連する取組みがなされているが、当該計画では「国際地域学部の取組を参考にして、探求型能動的学習における学外組織との連携を検討する」としているが、どのような点を参考にして、どのような連携を行ったのか、明らかでない（進捗不十分） ・当初年度計画では「交換留学制度の拡大」をうたっているが、その取組み・成果が明らかでない（進捗不十分） ・「成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する」という点が進展していない（進捗不十分） ・各部局における学外組織と連携した取組みをまとめていただきたい。また、その成果として、学生及び関係者からの満足度等の評価について、提示できるようにしていただきたい	(コメント) ・医学部で成果として挙げられていることが、探求型能動学修にかかわることなのか読み取れない。（保留） ・工学部の計画が、そもそも「学外の組織と連携した」という視点での計画になっていたのか読み取れない。（保留） ・「成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する」という点が依然として進展していない。そもそも「国際地域学部の実績の報告を待って、医学部として検討を行う」という記載を除いて、国際地域学部も含めて各部局の年度計画が 1-⑥-2 の目標と一致していないのではないか。その理由は、「他部局へ随時適用する」予定の国際地域学部の取り組みが何であるのか明確になっていないことにあるのではないかと。（進捗不十分） ・各学部で取り組んでいる探求型能動的学修について、実施状況（対象者数を含む）がわかるように授業科目別に学外組織との連携状況とその成果（関係者からの評価を含む）を資料としてまとめていただきたい。 ・医学部の記載はないが、探求型能動的学修が行われていると思われるので、実施状況を記載できると良い。
	1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第 2 期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><COC 推進機構></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加」をあげており、4コースだけではなく、新しい社会人向けプログラムの開講（科目数の増加）が必要ではないか ・「学びやすい教育システム等を整備し」をあげており、“学びやすさ”をどのように検証するのか検討いただきたい 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出の計画で謳っている社会ニーズの検証が実施されたのか不明な部局がある。また、実施した旨が読み取れても、検証がなされたのか、どういう結果が得られたのか、が読み取れない部局がある。（保留） ・最終的に第2期中期目標期間末と比較した場合の成果や向上を示せるように引き続きデータ収集をお願いしたい。
	<p>1-⑦-1 「地域の理科教育の核となるコアサイエンスティチャー(CST)養成プログラム」、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」、「産業現場に即応する実践道場」、「履修証明プログラム」などにおいて、社会人が学びやすい教育システムの整備を行い、教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援する。また、関係者の意見聴取や満足度の検証を行うとともに、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる。</p> <p><各部局></p>	<p>1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では、昨年度に引き続き、関係する社会人教育を実施しているが、受講者数などが昨年度に比較して増加したのか現時点では明らかでない。 ・当初年度計画では「受講者の満足度やニーズを検証する」としているが、一部では実施されているものの、其々のプログラムごとに実際に調査・検証がなされているか明らかでない(文科省提出年度計画で挙げられている)。少なくとも、全体としての満足度が示せるようにデータの収集等を願いたい ・<u>年度末には CST 養成プログラム、履修証明プログラムの科目数や受講者数の増加状況を記載していただきたい</u> ・<u>年度末にはニーズの調査、検証結果を記載していただきたい</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部の 1-⑦-1-1-4 の進捗率が 0 である。（保留） ・多くの部局で、プログラムの科目数や受講者数の「増加」がわかるような書き方に必ずしもなっていない。（保留）
<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化された計画の進捗がなからず良好ではないため「進捗不十分」とした。当該計画では「教育の国際通用性や学位の質を保証」を目的としており、それが達成できたとするエビデンスをどのように集めるのか検討いただきたい（進捗不十分） 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省に提出した計画では、国際的な水準の要件による検証・改善、となっているが、どのような改善がなされたのか、十分には読み取れない。（進捗不十分） ・文科省に提出した計画では、教学 IR の基盤整備を進めるとあるが、どのように進んだのか、

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p>に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に取り組みが進んでいない。工学部以外の学部に関して記述がないが、それでよいのかを確認する必要がある（進捗不十分） ・教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただき、カリキュラム・授業評価委員会を中心としたカリキュラム・マネジメントの実績や整備された教育の質保証システムの運用実績が提示できるように進めていただきたい 	<p>読み取れない。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する中期計画の中で最も取り組みが遅れており、早急に体制を立て直す必要がある。（進捗不十分） ・教育の内部質保証システムの整備を進め、全学的な組織体制、検証方法（教学 IR を含む）のもとに、全学的な教学マネジメントが確立できるように取組を進めていただきたい。（進捗不十分）
	<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・教育の内部質保証システムの整備が進んでいない。早急に、全学的な体制を整備いただきたい（進捗不十分） ・内質保証の見直しは開始されたが、年度末に開催予定の全学 FD・SD シンポジウム以外の具体的な計画が明らかではなく、現時点では年度末までに十分なデータや成果が得られるかが不明である（進捗不十分） ・内部質保証システムについて検討を進めていただき、今後、IR 機能も含めて充実を図っていただきたい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・進捗率は 100%となっているが、記述内容からは、教育の質保証システムの整備が進んだとは判断できない。（進捗不十分） ・平成 30 年度計画に書かれている 8 要素は、「教育の内部質保証システム構築に関するガイドライン」の古い版（2013 年頃）からとったものだと思う。新しいガイドライン https://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/_ic_sFiles/afieldfile/./guideline.pdf を踏まえて「内部質保証に何が必要か」を整理するとともに、認証評価を最近受審した国立大学の評価結果（第 3 サイクルでの機構による審査の実績はまだない？）を分析したうえで、内部質保証のために何を優先的にすべきか見極め、各部局に具体的に示すことが必要ではないだろうか。（進捗不十分） ・中間評価時と比較して大きな進展が見られず、具体的な成果が得られていない。（進捗不十分） ・教育の内部質保証システムの整備が遅れているので、全学的な組織体制、検証方法（教学 IR を含む）の策定等を引き続き進めていただきたい。（進捗不十分）</p>
	<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす（PDCA）。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。その結</p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>		<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定されている取組がなされていない（進捗不十分） ・「教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する」としているが、その実績が必ずしも明らかでない。特に、工学系では「この体制を積極的に取り入れたからこそ可能となった」と成果をあげており、同様な成果が他部局でもあげられるように期待する（進捗不十分） ・「本学の教育全般の『国際的な水準』の検証」や「教員組織・教育組織分離体制を有効に活用した質の高い教育実施のための適正な教育資源の配分」がどのように行われているのか判然としない（進捗不十分） ・カリキュラム・マネジメントを行うための実施体制を整備し、随時、点検・改善を行えるようにしていただきたい 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-2-1 の進捗率が 0%となっているため、進捗不十分とした。（進捗不十分） ・カリキュラムの評価・改善まで視野に入れたカリキュラム・マネジメントが動いていないとしたら、「動ける形」に再構築すべきではないか。（進捗不十分） ・「内部質保証システム」見直しについての検討結果が明らかではなく、「教員組織・教育組織分離体制を有効に活用した質の高い教育実施のための適正な教育資源の配分」がどのように実現されているのかも依然として確認できない。（進捗不十分） ・カリキュラム・マネジメントが実施され、学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を集約して把握・測定し、教育活動の見直し等が行われた成果等を資料として提示できるようにしていただきたい。（進捗不十分）
	<p>2-①-3 1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-3-1 (2-①-3-1-1~3)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「国際的な水準」であることを確認しているが、取組の状況として「~において検証する準備を行っている」であり、今年度後半に確認できるのか明らかでない（進捗不十分） ・<u>高等教育推進センターの進捗率が 0%であり、カリキュラム・授業評価委員会がどのように活動しているのかも確認できない。年度末にはこの点を明確にしていきたい</u>（進捗不十分） ・引き続き、検証を実施し、国際的な水準であることがわかる資料や各教育評価に基づく改善状況のわかる資料が提示できるように進めていただきたい 	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-3-1-2 の進捗率が 0%である。（進捗不十分） ・「教育全般が国際的な水準にある」とはどういうことなのかはっきりしていないことが、進捗不十分の根本的原因ではないだろうか。その意味を定めて、各学部で共有することを早急にやるべきではないだろうか。（進捗不十分） （例）「教育全般が国際的な水準にある」＝「質の高い学位プログラム」（1-①の検証結果で例を示した）＋「hidden curriculum 等も含め学生の成長を総合的に促す環境」＋「国際通用性を有する教務システム」（＝留学生の受入れ・送出しを支障なく行えるレベルの教務システム）＋「正規学生以外の受講生に対する教育への貢献」（社会人学びなおしなど）

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

					<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価時の「検証する準備を行っている」という記載が「検証した」という記載に変わっただけで、事実上年度計画が何も進展していない。（進捗不十分） ・国際的な水準できることを示すための検証結果が不十分であるので、次年度以降、さらに充実するよう取組を実施していただきたい。（進捗不十分）
2-②	<p>学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組を一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。</p> <p><キャリアセンター></p>			<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画で予定された取組やその成果が今回の進捗状況から読みとることができないが、本年後半でそれが達成できるのか危惧される（進捗不十分） ・「学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証」としているが、継続的实施を行っていただきたい（進捗不十分） 	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合」や「インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育」が体系的に実施されたことが分かるように記載していただきたい。（保留） ・学生の就職先や卒業生の意見聴取の結果（アンケート結果を含む）等から全学的に検証を行い、検証結果を資料として提示していただきたい。
	<p>2-②-1 インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組を一層推進する。</p> <p><キャリアセンター></p>	2-②-1-1 (2-②-1-1-1～6)		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加学生数の増加等、各部署ではそれぞれ取組が進められているが、当初年度計画に予定された取組に関する具体の取組や成果が記載されておらず、進捗状況が明らかでない（体制の合理化、整備は進んでいるのか？）（進捗不十分） ・地域志向人材育成と県内就職支援を志向する県内企業とのインターンシップの開拓について、取組がなされていない（進捗不十分） ・「<u>地域志向人材育成と県内就職支援を志向する県内企業とのインターンシップ開拓</u>」の進捗率が0%であり、年度末にはこの点の取組みや成果について記述していただきたい 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の合理化は進んでいる？ ・工学部以外の部局に関しても、報告されている数字がこれまでと比べてどの程度伸びたのかについて記載していただきたい。 ・地域志向人材育成の成果について記載していただきたい。（保留） ・学内全体でのインターンシップ実施一覧（派遣先・派遣学生数）、及び授業として実施しているインターンシップを含む授業科目がどれだけあるのか、またその授業科目への参加状況等（参加率・単位修得率等）が把握できるように資料として提示できるようにしていただきたい。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。 <キャリアセンター></p>	<p>2-②-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する」を目標値としており、その根拠となる満足度は随時フォローすべきものであり、その結果は向上しているのか明らかにしなければならない。少なくとも来年度には向上していただかなければならない（進捗不十分） ・「本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えている」を検証することとしているが、具体的な資質・能力等とはいかなるものか明らかになっているのか（進捗不十分） ・キャリアセンターで実施している学生の就職先へのアンケートには教員が含まれていないため、教育学部でその点に対処するためのアンケートが継続的に実施されているかどうかを確認する必要がある ・3年毎に実施している企業等へのアンケート以外に就職先での評価となるデータは取れないのか。意見聴取等のデータも取りまとめていただき、提示できると良い。1-①-5、1-②-3 の能力涵養状況と人材の輩出（育成）状況のデータにもなる（進捗不十分） 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【戦略1】の評価指標について、対応がないのではないかと（サポート体制への満足度は調べられているが、就職先での卒業生の評価状況の調査がなされていない）。（進捗不十分） ・「キャリア支援室のサポート体制に対する満足度」が「学生に社会的・職業的自立の基盤が形成されている」ことに対する満足度と考えてよい根拠を示せるようにしていただきたい。 ・アンケート結果以外でも就職先や卒業生から評価が資料として、企業等からの意見聴取等によるデータ等を提示できると良い。
	<p>2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく寄与するものであり、十分な成果が必要とされる。また、その成果を示すことができる具体的なエビデンスを検討いただきたい（進捗不十分） ・文科省提出年度計画では「国際地域学部の成 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価でも指摘された通り、この計画項目は法人評価に大きく影響するものであることから、全学的な取り組みを強化・加速し、平成 31 年度末までには説得的なデータやエビデンスを提示していただきたい。（進捗不十分）

			<p>果を全学的に検証する」としているが、その取組みは必ずしもなされていない（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスやナンバリングに関する取組みは一定程度進展しているが、国際地域学部における検証とその成果の全学的共有を加速していただきたい（保留） 今年度中に国際化に資する教務システムの整備完了となっているが運用面で進捗が遅れているものと思われる。全学的に検証等を進めていただき整備された教務システムが機能していて、成果があがるようにしていただきたい（進捗不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> 国際的に通用する教務システムの整備状況や検証した結果により見直し等した内容について、その成果等を資料として提示できるようにしていただきたい。（進捗不十分）
	<p>2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、（1-③-3 などの取組とあわせ）国際的に通用する教務システムを整備する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-1-1 (2-③-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初年度計画では「国際的に通用する教務システムの整備を終える」としているが、現状では整備が完了できるのか明らかでない。特にどのような要件が備わったら整備が完了したとするのか（進捗不十分） 国際地域学部で進められている「評価指標の策定」に期待したい（進捗不十分） 「国際地域学部における米国型 GPA 制度の導入成果と検証結果について、全学的に情報を共有するための報告会開催にむけ準備を進める」とされているが、現時点では国際地域学部における検証の進展が必ずしも明らかではない。年度末までには、この点の具体的な進展状況を記述していただきたい（保留） 学年進行によりやむを得ないと思うが、整備された教務システムが運用されて、機能しているのかわからない。CAP 制やナンバリングなど、導入後の実際の運用やその効果検証等がなされていないようなので、今後、進めていただきたい（進捗不十分） 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「英語による教務関係の情報提供」は進んでいるのだろうか？ 2-③-1-1-1 に、「多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に則った厳格な成績評価の実施状況を全学的に検証したとあるが、その結果はどうだったのだろうか？特に、ガイドラインの中の「同じ科目が複数のクラスに分けて開講される場合、成績評価の基準や方法に大きな差が生じないように、担当教員間で協議し調整を図って下さい。」について、本当に何の問題もなかったのだろうか？（担当教員間で協議し調整を図っているのか？） 国際地域学部の検証結果では、CAP 制とナンバリングが十分機能していないとの結果が出ているのに加えて、他の部局ではその点に関する検証結果が必ずしも明らかになっておらず、「見直しを進めた」理由と結果が記載されていない。（進捗不十分） 「多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に則った厳格な成績評価の実施状況を年度末の全学教務学生委員会において検証を行ったとの記載があるが、検証の結果どのような結論が得られたのか、あるいはどのような問題

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>点が見つかったのかが記載されていない。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学的に国際的に通用する教務システムの整備、検証が遅れているので、整備状況や検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。（進捗不十分）
	<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-2-1 (2-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は不十分である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画では「~教務システムの全学的な導入を終える」としている。しかしながら、国際地域学部では様々な取組みがなされているが、現状ではその導入が完了できるのか明らかでない（進捗不十分） ・国際地域学部における成果の検証に基づいて今年度中に「国際的に通用する教務システムの全学的な導入を終える」という目標を達成できる可能性は、現時点では不明である（保留） ・CAP 制の見直しやナンバリングの導入は終わったものの、実際の教務システムとしての運用はあまりされていないように思われる。CAP 制やナンバリングなど、導入後の実際の運用やその効果検証等がなされていないようなので、今後、進めていただきたい（進捗不十分）</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・国際地域学部での検証結果を全学的に議論する体制を強化し、どのような成果をいつ他部局に適用するのかを平成 31 年度中に明確にしていきたい。（進捗不十分） ・国際地域学部の GPA 制度の各学部への導入について検討することになっているので、現状の制度の見直しを含め、全学的な検討を引き続き進めていただきたい。 また、国際的に通用する教務システム（CAP 制、ナンバリング等）の導入後の運用状況や検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。（進捗不十分）</p>
<p><中期目標 3> 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。 <高等教育推進センター（学生支援部門）></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「ステークホルダーの高い満足度を維持」および「就職先から高く評価されている」が成果を示す K P I であり、これらを常にフォローするようにしていただきたい ・学生生活実態調査に留まらず、他のアンケート調査やヒアリング等からも関係者の満足度を常に検証し、資料として提示できるようにしていただきたい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出計画には「検証結果に基づく改善を実施する」と書いてあるので、検証結果と改善点がセットで分かるようなスタイルで進捗状況を書いていただきたい。 ・平成 31 年度末には各部局及び全学での取り組みに関して「ステークホルダーの高い満足度」のエビデンスとなるデータを示せるようにしていただきたい。 ・学生等からのニーズを適切に把握し、学生支</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			援に活かしているかどうか測られるため、改善することだけに留まらず、その要因や背景等を考慮して改善した結果に対する成果等が示せるようにしていただきたい。	
	3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する ＜高等教育推進センター（学生支援部門）＞	3-①-1-1 (3-①-1-1-1～8)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・それぞれの関係部局では、基本方針に基づくだろう様々な取組みがなされている。最終的に、基本方針に対応した取組み、その成果が一覧となるよう整理願いたい ・<u>年度末には、「第3期修学環境支援基本方針」に基づく関係部局の取組みの実施確認の結果を記述していただきたい</u> ・全学的な基本方針のもと、学生支援体制がどう整備・運用され、成果が得られているのかわからないので、今後、全学な視点から検証等を進めていただき、取りまとめしていただきたい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・全学的な基本方針のもとに行われた学生支援体制の整備（施設面の整備や支援体制等の整備）と運用状況、及びその成果について、資料として提示していただきたい。</p>
	3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。 ＜高等教育推進センター（学生支援部門）＞	3-①-2-1 (3-①-2-1-1～5)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・平成28年度に実施した満足度調査に基づき、改善等が図られている。しかしながら、「学生等への意見聴取を継続的に行い」に対応する取組が生活実態調査だけで良いのか。特に、当該計画のKPIは「ステークホルダーの高い満足度を維持する」であり、随時、満足度をフォローする必要があるのではないか ・<u>年度末には、提言を受けた各部局における支援体制の改善結果について記述していただきたい</u></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・高等教育推進センターからの提言の内容と各部局による対応の関係が具体的に分かるように記述していただきたい。 ・継続的に満足度を調査するだけでなく、改善等を行った事項への満足度調査についても成果・結果として提示できるようにしていただきたい。</p>
	3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 ＜キャリアセンター＞	3-①-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「就職先での高い評価を得る」をあげており、これに関する取組や成果はど</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・【戦略1】の評価指標への対応、特に「就職先での評価」への取組が30年度計画に盛り込ま</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>のようになっているのか、明らかでない</p>	<p>れていないが、それでよいのだろうか？（保留）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 31 年度末までには「第 2 期目標期間中と比較して向上した就職先での高い評価」のエビデンスを得られるようにしていただきたい。
3-②	<p>在学生の留学や外国人留学生の受入を積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。</p> <p><国際センター運営委員会></p>			<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画では「学術協定校数を増加させ」としているが、実際に増加しているのか確認したい 留学生及び派遣学生数の向上につながる交換留学制度の更なる拡大を期待したい。 当該計画では「留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革」を具体的な方策としてあげているが、少なくともそれぞれについては具体的な成果が求められるので、検討願いたい 教育学部・教育学研究科における進捗状況が記載されていないが、3-②については同学部・研究科は実施対象外であると考えてよいのか 受入、派遣とも数値が上がっているのかがわからないので、資料を提示できるようにしていただきたい。また改善されたことによる成果についても取りまとめていただき、全学的に検証を進めていただきたい 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 送り出した学生の数、受け入れた学生の数がどのように推移しているのかわからない。 平成 31 年度末には各種データとその向上について、分かりやすい形で示せるよう取り組みを進めていただきたい。 留学生受け入れ（特に正規留学生）への具体的な対策が行われておらず、具体的な方策の検討も行われていないようなので、成果があがるように検討を進めていただきたい。
	3-②-1		3-②-1-1		
	<p>外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。</p> <p>(1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対しにどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきなのかなど、情報提供を行う。</p> <p>(2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。</p> <p><国際センター運営委員会></p>		<p>(3-②-1-1-1~6)</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初年度計画で予定していた取り組みがそれぞれの部局で順調に実施されている。なお、当該計画の主要な K P I は留学生数の向上（15%増）と関係者からの高い評価であり、それが達成できるよう更なる取組を期待したい 学生支援体制以外の部分で全体的な留学生の 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画では、留学生に対する満足度調査と結果分析を行い、来年度の改善策を立てる、とあるが、「来年度の改善策」が立てられていない点は、不十分と映る。 3-②-1-5 の進捗率が 0%であるが、記入し忘れ？ 留学生数がどのように増加しているのかにつ

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>受入状況など、「期末の達成状況」欄に示された項目が現時点でどの程度達成される見込みがあるのかわからないので、具体的にどれぐらい進捗しているのかわかるようにしていただきたい</p>	<p>いてのデータを記載していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私費外国人留学生入試（工学部特別枠）の実施結果（受験者数、合格者数）がどのようになったかについて記載していただきたい。 ・正規留学生（国費や政府派遣以外）の受入れ状況が結果として、特に記載されていないが状況としてどうなのか。何か改善に向けての取組みや対策は実施されているのか。
	<p>3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。 ＜国際センター運営委員会＞</p>	<p>3-②-2-1 (3-②-2-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定していた取り組みがそれぞれの部局で順調に実施されている。なお、当該計画の主要な K P I は派遣学生数の向上（15%増）と関係者からの高い評価であり、それが達成できるよう更なる取組を期待したい ・語学センターの取り組みについては「該当なし」となっているが、どのような意味か。語学センターが実施対象外の部局であるということであれば、紛らわしいので記入欄を削除すべきではないか ・取組みの結果、派遣学生数は増える見込みなのかどうかかわからないので、<u>年度末までにその成果がわかるようにしていただきたい。</u></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省に提出した年度計画には応えているが、各部局の 30 年度計画が達成されたかという観点からは、以下が ? である。 医学部・医学系研究科：「プログラム内容の確立」、「・・・の可能性について協議を開始する」（看護学科） 工学部・工学研究科：「・・・の質の向上を検討する」（保留）</p>	
<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れ</p>	<p>4-① 一体的な 3 ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこでの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。 ＜入学試験委員会＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「～を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する」としており、具体的な導入実績とその成果が明示できるように検討いただきたい(進捗不十分) ・文科省提出年度計画であげた「～について予告として取りまとめ、公表する」、「合同の評価開発研究会等の年 2 回以上開催」さらに「募集人員の定数化を図る」について、具体的な成果が見られないが本年度後半でこれ</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・文科省提出の年度計画には「評価開発研究委員会、入試開発会議を年 2 回以上開催し検証する」とあるが、そうした会合が年 2 回以上開催されたことが読み取れない。(進捗不十分) ・文科省提出の年度計画に挙げられている「国際地域学部高大接続型入試に係る募集人員の定数化をはかる」は実現したのか？(進捗不十分) ・そもそも、文科省提出の年度計画の中に登場</p>	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

を進める。			<p>らは達成されるのか明らかでない(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該目標のKPIは「多様な学生が受け入れられたのか」であり、それに関するエビデンスを収集するよう、検討願いたい(進捗不十分) ・平成 33 年度入試以外についても、各年度で検討・改善された点について資料として提示できるようにしていただきたい。また、その改善後の成果についても検証を進めていただき、資料を提示していただきたい 	<p>する数字やキーワードが、各部局の年度計画の中に必ずしも見当たらないのは、計画の立て方としてまずいのではないか。(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試に関しては慎重な検討が必要であるものの、平成 31 年度末までには具体的な実績や改善を示せるようにしていただきたい。(保留) ・平成 33 年度入試に向けての検討状況やその決定された内容等について、具体的な内容と改善された点を成果等として提示できるようにしていただきたい。具体的に決定され、公表された内容・実績等があるのではないか。(保留)
	<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-1-1 (4-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画では「実施・評価体制を整備する」としている。各部局で様々な取組みがなされているが、体制整備に繋がる取組み・成果が明らかでない(進捗不十分) ・学力評価テスト（仮称）の全学的な取り扱いについて、志願者に周知したとしているが、方針等が策定されたのか、志願者への通知がどの程度のものとなっているのか明らかでない。(進捗不十分) ・<u>年度末には、検討・実施・評価の結果について、より具体的に記述していただきたい</u> ・平成 33 年度からの入試の検討以外にも、各年度で導入された多面的・総合的に評価判定できる選抜方法の策定・導入状況等の検討・改善された点を記載及び資料として提示できるようにしていただきたい。 ・国際バカロレア資格等の活用の検討状況はどうか </p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・4-①-1-1 では、「実施・評価体制を整備する」のが年度計画であるのに対し、具体的取組に書かれている内容は「整備」ではなく「研究・開発」のように思える。「整備」のレベルに達しているのだろうか？(保留) ・工学部の年度計画には「関連性を調査する」という記述があるが、調査が行われたのかわからない。もしやっていないのであれば、進捗率 100%とは言えないのではないか。(保留) ・中間評価時と比べて基本的に進展がないにも拘わらず、進捗率が 100%に上昇した理由が説明されていない。(保留) ・達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）への取組み状況が具体的に記載されていないが、取組み内容や検討状況等を具体的に記載していただきたい。また、年度毎に取組状況とその成果等を資料として提示できるようにしていただきたい。(保留) </p>
	<p>4-①-2 新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。</p>	<p>4-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><入学試験委員会></p>		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画に関連する概算に係る取組みがなされているが、当該計画の成果として「多面的・総合的に評価する手法」を具体的に提示できるものにしていただきたい ・<u>年度末には、高大連携教育参加者を対象とした開発中の評価手法の検証結果を記述していただきたい</u> ・各年度で取り組んだ高大連携によるプロジェクトによる評価の信頼性・妥当性についての検証結果資料、プロジェクトの実績が高大連携入試や高校または大学での授業等の改善につながった実績が資料として提示できるようにしていただきたい 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間時点でのコメント「年度末には・・・評価手法の検証結果を記述していただきたい」に対する対応が読み取れない。(検証結果の記述がない。) ・中間評価時と比べて基本的に進展がないにも拘わらず、進捗率が 100%に上昇した理由が説明されていない。(保留) ・「高大連携教育参加者を対象とした開発中の評価手法」に関する検証の進展が年度内にどのように進んだのか確認できない。(保留) ・各年度で取り組んだ高大連携によるプロジェクトにおける評価の信頼性・妥当性についての検証結果資料、プロジェクトの実績が高大連携入試や高校または大学での授業等の改善につながった実績が資料として提示できるようにしていただきたい
	<p>4-①-3 2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試への導入は当該計画の成果と言える ・本事業で開発された評価手法等を取り入れた高大接続入試の他学部での実績を拡大していただき、その成果等を資料として提示できるようにしていただきたい 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大接続 AO 入試合格者の学修成果の検証結果を記載していただきたい。 ・本事業で開発された評価手法等が、高大接続入試に導入されたことがわかるように、高大接続入試での実績とその成果等を資料として提示できるようにしていただきたい
	<p>4-② 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画では「国際地域学部の～定数化」をあげているが、これは達成できたのか ・現時点では、進捗状況について判断できない記述が散見される。<u>年度末には具体的な取り組み結果を記述できるようにしていただきたい</u> (保留) 	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-①と同じく、入試に関しては慎重な検討が必要であるものの、全体的に中間評価時と比べて大きな進捗がない項目が見られる。(保留) ・アドミッション・ポリシーの点検及び検証結果等は全学として統一的な指標で検証結果をまとめられるよう必要項目を設定していただ

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>・アドミッション・ポリシーの点検及び検証結果等は全学として統一的な指標で検証結果をまとめられるよう必要項目を設定していただき、各部局において検証を進め、年度毎に資料が提示できるようにしていただきたい</p>	<p>き、各部局において検証を進め、年度毎に資料が提示できるようにしていただきたい。</p>
	<p>4-②-1 志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-1-1 (4-②-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では様々な関係する検証がなされているが、それをいかに入試方法等の改善に繋げるのか、また改善した実績、その成果が提示できるようにしていただきたい ・当該計画では、少なくとも志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズについては、検証結果が一覧できるような整理をしていただきたい ・引き続き検討・検証していくとしている部局があるが、年度末には成果を具体的に示せるよう進めていただきたい ・全学的に点検した結果がわかるように資料としてまとめられるようにしていただきたい </p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、計画と進捗状況の対応関係がよくない。(計画に挙げた個々の項目に対して進捗状況を書くべきである。逆に言うと、進捗状況に書けそうもないことは計画に書かない。) (保留) ・4-②-1-1 の年度計画の「教育課程の改善に必要な取組を行う」はどうなったのか？(保留) ・4-②-1-1-4 の年度計画の「コース選択との関連性を検証する」はどうなったのか？「今年度改正しない」ことはわかったが、「検証」もしなかったのか？(工学部・工学研究科)(保留) ・4-②-1-1-5 の年度計画の「2 年生までのカリキュラムについて妥当性を検証する」はどうなったのか？(国際地域学部)(保留) ・いろいろな検証がなされていることはわかったが、検証の結果が必ずしも読み取れない。(保留) ・「国際地域学部の課題探究プロジェクト(PBL)の評価方法としてアドミッションセンターで開発したルーブリックを基にした多面的に評価する手法を確立した」以外、中間評価時と比べて基本的に進展がないにも拘わらず、進捗率が 100%に上昇した理由が説明されていない。(保留) ・各部局では取組みが行われているが、全学的な取組みや検証は行われていないのか。全学的な視点での検討・検証結果や改善策等が求められるので実績等をあげられるようにしていただきたい。 </p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-2-1 (4-②-2-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・各部局では入学定員の見直し、修正がなされている。 ・全学的に見直した成果がわかるように資料としてまとめられるようにしていただきたい。また見直し後の結果についても検証していただき資料として提示していただきたい。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・工学部・工学研究科の 4-②-2-1-3 の年度計画の「学科定員のコース定員の最適化」とは何か？（保留） ・工学部・工学研究科の 4-②-2-1-3 の「成果」は、AO 入試や推薦入試の募集人員についての話であり、「学科定員の最適化」にも「コース定員の最適化」にも当たらないのではないかと？（保留） ・中間評価時と比べて基本的に進展がない部局についても進捗率が 100%に上昇したとされているが、その理由が説明されていない。 ・入学定員の適正化が行われたとあるが、部局単位ではなく全学的な視点から見て、適正であることがわかるように具体的な根拠資料や検討した経緯等が提示できるようにしていただきたい。</p>
	<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・高大連携の具体的取組の実施状況（定量的な指標）を随時フォローしていただきたい。少なくとも、これらが向上したことが当該計画の成果となる。 <u>・年度末には取り組み状況とその成果を具体的に記述していただきたい（保留）</u> ・各学部の教員が実施している高大連携（高校等授業）への参画状況が資料として提示できると良い。総合データベース等の教員の入力データ（地域・社会貢献活動）等から SSH 校や SGH 校などへの支援状況が実績資料として提示できないか。または、他に全学的に調査する方法があると良い</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・4-②-3-1 の進捗状況の欄では、計画の 2) と 3) をあわせて回答がなされているが、その内容は 2)のみに対するものであり、3)に対する進捗状況が読み取れない。（保留） ・「地域のスーパーグローバルハイスクールやスーパーサイエンスハイスクール、グローバルサイエンスキャンパスなどへの支援」が行われているのかが明確に分かるような形で記載していただきたい。 ・アドミッションセンター以外で実施している高大連携事業への取組状況がわからない。他にもあるのではないかと。 ・前回は記載されているように各学部の教員が実施している高大連携（高校等授業）への参画状況が資料として提示できないか。総合データベース等の教員の入力データ（地域・社</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				会貢献活動）等から SSH 校や SGH 校などへの支援状況が実績資料として提示できないか。または、他に全学的に調査する方法があると良い。
	4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会>	4-②-4-1 (4-②-4-1-1~5)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画にあげられた取組がそれぞれの部局で進められている。 ・当該計画では「県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保」が目的であり、この達成をどのようなエビデンスで示すのか、検討いただきたい ・「進捗状況」欄の記述が「取り組み」欄の記述の繰り返しになっている部局が見受けられ、進捗状況を判断できない（保留） ・本学が実施した高大接続事業等が大学教育・生活への移行に役立ったことが検証結果として、年度毎に蓄積され、資料として提示できると良い ・年度計画に挙げられている入学学生の追跡調査等の各検証結果が資料として提示できるようにしていただきたい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・4-②-4-1 の「成果」に書かれている文章の意味がわからない。（「**した結果、**の結果、**が明らかになっている」という文章の意味がわからない。）（保留） ・県内出身者を含めた多様な学生を確保できたことを示すデータや、工学部のオープンキャンパス時のアンケートのように、「関係者の高い満足度」のエビデンスとなるデータを示せるようにしていただきたい。 ・県内出身者確保の取組について、本年度は検討だけに留まり進捗していないようなので、実際の具体的な取組を早期に実施し、成果があげられるように進めていただきたい。</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【研究】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント	平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画に係る中期目標では「<u>国際・国内研究拠点の形成を目指し</u>」となっており、<u>当該計画の成果によって拠点形成がなされたことを示す具体的なエビデンスを検討願いたい</u>（以下同様） ・当該計画は「<u>戦略性が高く意欲的な計画</u>」となっており、<u>法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい</u> ・定量的な K P I の達成度は年度中間のため明らかでないが、予定された取組が実施されている ・英語論文数が厳しい状況である（高エネセンターの第 2 期：1 1 8 件、第 3 期：3 6 件、印刷待ちを入れても 4 1 件）（進捗不十分）</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・「生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる」ことへの見通しを、検討する必要がある。 ・成果の記載にあたっては、指標との関係性が正確に示されているかを十分確認していただきたい。 ・十分な取り組みと思われるが、第 2 期との比較できる記載方法としてもらいたい。</p>
	<p>1-①-1 （目標を実現するための推進方策） 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定された研究が進められており、一部論文発表などの成果があがっている ・当該計画にあげた医工教連携研究活動の進捗状況が明らかでない;学内横断的としており、それに係る成果を提示願いたい ・細分化した中期計画の内容である「国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施」と取組内容の概要で書かれた内容が対応しないように見える。そのため進捗状況として、細分化した中期計画と進捗状況が合わないのではと思われるところが見受けられる ・中間であるにも関わらず、進捗状況が詳細に記載されおり、高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センターともに十分な取組がなされている ・研究は着実に取り組まれ進捗されていると思います。成果もあがっているので進捗は概ね良好と判断しましたが、<u>具体の取組が～を目差すと</u></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・それぞれの中期計画について論文数の増加、取り組みの進捗がみられている。 ・各課題の研究が進んでいることは読み取れる。ただし、方策として掲げられている「国際・国内共同研究」「医工教育連携」の状況が不明。次年度以降は研究内容だけでなく研究実施体制についても言及していただきたい。 ・研究は着実に取り組まれ、総じて中間評価時よりも研究としては進み、成果もあがっているので進捗は概ね良好と判断しました。ただ、1-①-1-5 について、「～基礎的検討を開始した。」「～できると期待されている。」となっている点は、成果を判じかねますので記載を改めていただきたいところです。また、1-①-1-6 について、「～ならないことが判明し、～」については研究計画の立て方に問題があったとも読めるので、慎重に表現して欲しいところです。 ・<u>具体の取組に沿った研究が進捗されており、論</u></p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>いう表現であり最終評価は難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究が活発に進められている状況が分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載からは判断ができない。<u>評価指標に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。</u>（保留） 	<p>文数等の具体的な成果にも結びついている。ただし、基準となる具体の取組が～を目指すや検討を行うという表現であるため、成果が出ているが数値的目標としての進捗を図ることが難しい。</p>
	<p>1-①-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文掲載、共同研究等の成果があがっているが、年度中間でもあり評価指標としてどの程度達成できているのか明らかでない（保留） 評価指標として、「……を第二期より 20%以上増加させる」としているが、現在どの程度達成しているのか、すなわち基準の元となる第二期の数値が不明なため評価が難しい 国際シンポジウム、国内・国際共同研究の取組や、発表論文数、被引用回数についても十分の成果が上がっている。学術誌の掲載と学会発表の数値については、被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい 進捗状況の記載について成果が数値により明示されていて進捗していることが分かるが、<u>年度の最終目標に対応した記載が必要と思われる</u> 英語論文数が厳しい状況である（高エネセンターの第 2 期：118 件、第 3 期：36 件、印刷待ちを入れても 41 件）（進捗不十分） 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際ワークショップの取組、共同研究、論文数と被引用回数ともに順調に推移している。特に、高エネルギー医学研究センター辻川哲也准教授の第 5 回日本核医学会リターニー賞と、同米田誠客員教授による第 14 回福井県科学学術大賞受賞は特筆に値する。 「生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる」ことへの見通しを、検討する必要がある。 第 2 期の実績との比較を明示していただきたい。（保留） 1-①-2-1 の成果に補助金の獲得が記されているが、開催数の増加を指標とすることに対して、これは「取組」にあたるもので、成果としては開催数およびその増加状況を数値で示していただきたい。 各評価指標にたいする成果が出ていることから順調な進捗であると思われるが、やはり 20%増の比較ができないため、基準値が記載された統一された記載とならないか。
	<p>1-② 我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>		<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定量的な K P I の達成度は年度中間のため明らかでないが、予定された計画が実施されている 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り実施されていると思われるが、状況を記載する段階で適切な記載になっていない部分がある。
	<p>1-②-1 （目標を実現するための推進方策）</p>	<p>1-②-1-1</p>	<p>(検証結果)</p>	<p>(検証結果)</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5 1-②-1-6</p>	<p>進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-②-1-1 について、国内共同研究の実績があがっているが、国際共同研究の実績はどうか明らかでない 1-②-1-3 について、今回雇用された研究員が“若手”に該当するのか確認願いたい 国際ワークショップの開催、人材育成のためのプログラム、若手教員の雇用について、成果が順調に上がっている 評価指標に見合った進捗が伺え、順調であると判断する 	<p>進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際共同研究の実施についても順調に進捗している。 資金の戦略的配分を行ったという事実だけでなく、研究を推進するうえでの若手研究員の雇用の目的・必要性とその成果について説明が必要と思われる。 指標からは十分な進捗がうかがえます。ただ、1-②-1-5 の記述が中間のものと同じです。もしもこれが正しいのであれば、進捗率が 70% と 100% と異なっていることの説明がつきません。 具体の取組に沿った形で進捗しており、若手研究員等の採用状況も把握でき成果があがっている。
		<p>1-②-2 （中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究等の成果があがっているが、年度中間でもあり評価指標としてどの程度達成できているのか明らかでない（保留） 掲載数については、平成 30 年度のみならず、これまでの推移を含めてどうなのかの記載がないと、細分化した中期計画の検証が難しい。 学術誌の掲載と学会発表の数値については、被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい 国内・国際共同研究の実施件数については、順調に成果が上がっている 評価指標に対応した記載となっているが、年度の記載目標値が分からない部分もあり判断材料として記載が必要 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後継続して被引用回数のモニタリングをお願いしたい。 英語掲載論文数について、単年度の目標値とそれを超える十分な実績を明示いただいているが、H30 年度までの累計数もあわせて示していただきたい。（保留） 国際共同研究についての成果に MOU の締結のみの表現になっている部分がありますが、共同研究数で記載していただきたい。 評価指標の基準値を概ねクリアしていると思われる。今後の更なる成果が期待できる。
		<p>1-③ 「安全と共生」を基本として平成 21 年 4 月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものである 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に多くの成果をあげていると思います

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p><附属国際原子力工学研究所></p>		<p><u>り、十分な成果を期待したい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中ではあるが、多くの K P I が目標値に達している ・受賞実績が第 2 期より落ち込んでいる（第 2 期：6 件、第 3 期：1 件）（進捗不十分） 	
	<p>1-③-1 （目標を実現するための推進方策） 公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 1-③-1-3 1-③-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・事業の採択、国際セミナーの実施等、当初年度計画に沿った取組が進められている。しかしながら、当該計画の主な K P I である「公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣」の実績が明らかでない ・年度計画に沿った研究が着実に進められており、成果も具体的に記載されている ・各取組に係る進捗状況は高い進捗率となっており、各研究の進捗は順調と判断する ・研究が活発に進められている状況が分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからでは判断ができない。<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。</u>（保留）</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・年度計画に沿った研究が着実に進められており、成果も具体的に記載されている。 ・進捗状況（中間）に比べて記載内容がほぼ同一である。 ・意欲的に研究が進められていると思われる。 H30 年度計画には記載されていない「海外研究機関との研究者の相互派遣」についても取組みを進めていただきたい。 ・指標からは十分な進捗がうかがえます。ただ、1-③-1-4 の記述が中間のものと同じです。もしもこれが正しいのであれば、進捗率が 80% と 100% と異なっていることの説明がつきません。 ・各取組における研究の進捗については概ね良好と判断しますが、取組の記載事項と進捗状況の記載事項とのつながりの判断がつきづらいので、それが分かるような記載にならないか。</p>
	<p>1-③-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-2-1 1-③-2-2 1-③-2-3 1-③-2-4 1-③-2-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・年度途中ではあるが、多くの K P I が目標値に達している。 ・1-③-2-4 について、1-③-1-2 に記載された優秀ポスター賞はこれに該当しないのか ・国内・国際共同研究実施件数の増加状況については大変優れた進捗状況である。 ・学術誌への成果発表について、大変緻密な報告がなされている。被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・各評価指標に対する目標値、実績値が明確であり容易に判断でき記載方法もよい。進捗につい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・学術誌への成果発表について、大変緻密な報告がなされている ・今後継続して被引用回数のモニタリングをお願いしたい。 ・十分な成果をあげている。ただ、1-③-2-1 において、目標値に対して 1000% といった表現が見受けられるが、元々年 1 件未満の指標については、1 件の実施が 100% を超える指標となつて計算されることから、この表現を多用することは避けた方がよい。場合によっては、指標を適切に設定できていたのかという指摘につな</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>て概ね良好である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞実績が第 2 期より落ち込んでいる（第 2 期：6 件、第 3 期：1 件）（進捗不十分） 	<p>がる恐れもあると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各取組みは順調に推移しており、十分な進捗であると判断できる。また記載方法も目標値に対する進捗を%で表現してあり判断しやすい。ただし、論文の被引用数は年を追うごとに増加すると思うが慎重に見ていく必要がある。
1-④	<p>教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>			<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい ・教育や社会貢献の点から、これまでの十分な実績からすでに拠点掲載がなされていると思われるが、当該中期目標では“教師教育研究”の拠点形成を目的としており、研究開発を視点として成果を明示できるよう配慮願いたい ・具体の取組について、各進捗状況に差がみられる 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成された取組と達成されていない取組があるが、今後の進捗に注意願いたい。（保留） ・順調に進んでいると思われる
1-④-1	<p>（目標を実現するための推進方策）</p> <p>全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>1-④-1-1</p> <p>1-④-1-2</p> <p>1-④-1-3</p> <p>1-④-1-4</p> <p>1-④-1-5</p> <p>1-④-1-6</p> <p>1-④-1-7</p> <p>1-④-1-8</p> <p>1-④-1-9</p>		<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果）</p> <p>保留</p>
				<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度中間のため十分な成果は出ていないが、当初年度計画で予定された取組が進められている。 ・1-④-1-6 について、拠点数等は目標値に達している ・具体の取組について、各進捗状況に差がみられる ・前年度末に指摘した内容については、具体的な進捗がみられないため、引き続き検討をお願いしたい（1-④-1-4 については公開研究会が 11～12 月に実施） ・概ね良好な進捗と思われるが、進捗が進んでいないものもあり、今後に期待する ・1-④-1-4 については、年度末評価の際に、公開準備会及びラウンドテーブルへの大学教員 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の取り組みについて中期計画に沿った進捗がみられている。 ・各取組みは意欲的に進められているが、これらの実践の背景や意義についての研究、また取組みの成果・課題を検証する研究がどの程度なされているのかが不明である。（保留） ・1-④-1-4 の進捗が 0%は記載漏れでしょうか？また、1-④-1-7 の進捗が中間と最終で同じになっていますが、これも記載ミスでしょうか？ ・基本、具体の取組に対する進捗は順調ではあると思うが、進捗が進んでいない項目が見受けられる。特に 1-④-1-4 は進捗率が中間（20%）より年度末（0%）が減少しているのはなぜか不明のため全体の検証結果は保留とした。（保留）

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p><u>の参加率を明記いただきたい</u></p> <p>・1-④-1-5 については、年度末評価の際に、<u>協働実践型 FD との連動状況について明記いただきたい</u></p>	
		<p>1-④-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>	1-④-2-1	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エジプト・日本教育パートナーシップ事業に採択が決まった ・連合教職大学院が設置され、順調に推移していると考えられる ・評価指標①の進捗は。その他の②～⑤は概ね良好と思われる。（保留） 	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の取り組みについて中期計画に沿った進捗がみられている。 ・十分な成果を挙げていると思われるが、評価指標との関係を明確に示し、理解を促進する工夫をしていただきたい。 ・評価指標の①と③の記載はあるでしょうか。（保留）
<p><中期目標 2></p> <p>科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p>	<p>2-① 医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>			<p>（検証結果）</p> <p>保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく影響するものであり、十分な成果を期待したい</u>（保留） ・年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない ・半年毎の論文・学会発表等の調査は取って行っていないが、それぞれの取組について優れた論文の発表を行っており、概ね順調に成果が上がっていると判断した ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか ・2-①-1, 2-①-2 について、平成 2 9 年度より、中間評価では「(定量的指標については) 確認作業中」となっていることから、中間時点でも何らかの形で集計が可能か確認したところ、回答が得られなかったため、今後検討・整理が必要と思われる。（保留）（検討中） 	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん、脳、アレルギー・免疫の分野別のデータの検証が今後必要である。 ・学術論文がどの研究分野に関するものなのかも整理し、指標に対応する形で常に成果をモニターし、一層の研究推進に取り組んで行っていただきたい。 ・具体的な進捗が記載されており適切であると判断する。
		<p>2-①-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目</p>	<p>2-①-1-1</p> <p>2-①-1-2</p>	<p>（検証結果）</p> <p>保留</p>	<p>（検証結果）</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画であげた研究が実施されているが、成果が明らかでない ・これら研究を推進するにあたり、それを支援する方策等に関する取組がなされていないのか確認願いたい(成果としてあげられないか)(保留) ・全て「研究を推進中」「確認作業中」となっており、検証ができない ・進捗率については年度毎ではなく、第三期最終の達成目標を念頭に「きびしい」自己評価としている ・それぞれの取組について優れた論文の発表を行っており、順調に成果が上がっていると判断した ・取組は各々研究を推進するとなっているが、成果が確認作業中であり、研究実績が見えてこないため保留とする（保留） 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な成果が記載されており、順調に成果が挙がっていると判断した。 ・成果の質的な評価も工夫していただきたい。 ・年度末の進捗率が全て 80%になっていますが、明確な理由がありますでしょうか？中には 100%とした方が適当なものもあるように思いますが。 ・成果が明確に記載されており進捗状況が概ね良好であると判断した。なお、進捗率は年度ではなく、第三期の目標値に対する達成度と考えればよいか。
	<p>2-①-2</p>	<p>(中期計画に記載の評価指標) 学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期より 20%以上増加させる。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-2-1 2-①-2-2 2-①-2-3 2-①-2-4</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て「モニタリングを実施予定」となっており、検証ができない ・年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのかわらかでない ・学部（部門）のすべての教員のプロジェクト進捗状況について、半年毎の論文・学会発表等の調査は取って行っていない。年度末に一年度分として集計し、進捗状況を検証する予定である（保留） ・各進捗状況がモニタリングの実施予定となっているため保留とする（保留） 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん、脳、アレルギー・免疫の分野別のデータの検証が今後必要である。 ・論文や学会発表の数について、がん、脳、アレルギー・免疫の分野での 20%増加を指標にうたっていることについて、ここで記載されている数字がそれにあたるものなのかについてわかるように記載していただきたい。 ・2-①-2-2 で年度末の進捗率を 50%と評価しているが、数字としては半分というイメージはなく、80~90%と判じても良いように思います。何か他に根拠があって 50%としたのでしょうか？ ・成果は着実にあがっており、第二期と比較しても順調であると判断する。更なる推進が必要な項目もあるため今後とも順調な推進を期待します。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-② 前身の福井高等工業学校設置から 90 年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。</p> <p><工学部・工学研究科></p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない（保留） ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか ・2-②-2 について、モニタリングの実施にいたっておらず、判断できない（保留）</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・2-②-2 について、具体的数値が示されていないために判断を保留する。（保留） ・計画通りに取組を進めている。 ・現時点での進捗評価はできないため、検証結果を保留とする。（保留）</p>
	<p>2-②-1 （目標を実現するための推進方策） メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。</p> <p><工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p> <p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定された取組が進められている ・人事運用とプロジェクト研究の推進はよいが半年毎で何%達成はなく、数年単位の視点で評価すべき内容ではないか ・年度計画に沿って順調に取組が進捗しており、進捗率も高く良好な状況と思われる</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・計画通りに取組を進めている。 ・具体の取組に沿った成果が上がっており、各項目ともに具体性もある記載となっている。</p>
	<p>2-②-2 （中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第 2 期より 20%以上増加させる。</p> <p><工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p> <p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのか明らかでない（保留） ・モニタリング結果は ・学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか（保留） ・被引用回数も含め、年度末に改めて進捗状況の記載をお願いしたい ・モニタリングの前段階であり、今後の結果による判断となるため保留とする（保留） ・モニタリングの実施にいたっておらず、判断できない（保留）</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・具体的数値が示されていないために判断を保留する。（保留） ・モニタリングの結果を示していただきたい。（保留） ・計画通りに取組を進めている。 ・モニタリングを行う。また、調査する。との記載であり達成度の判断ができないため保留とする。（保留）</p>
<p><中期目標 3></p>	<p>3-① 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究</p>	<p>(検証結果)</p>	<p>(検証結果)</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p>社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない（保留） ・<u>当該計画では「地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進」を目的としており、これが達成できたことを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい（保留）</u> ・文科省提出年度計画であげている「地域ビジョンに基づく戦略的研究」、「実践教育プログラム構築・提供」に係る取組みがなされているのか明らかでない（保留） ・3-①-1 について、様々な活動が活発に行われていることは分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからは判断ができない。<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい（保留）</u> 	<p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への貢献を全体に対する率で表したものを指標として評価するのは、国際政治情勢や市場の状態、金融機関の意向等による影響を直接うけることから適切ではない可能性があります。より正確に状況を把握できる計算方法と KPI の設定を随時見直す必要があると思います。 ・各評価指標記載の事項について着実に進捗している。
	<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3-①-1-2 について、知財創出・活用状況として出願件数や棚卸実績が示されているが、これらを含め知財創出・活用が向上しているのか明らかでない ・多くの取組について、順調に推移している ・産学官連携コーディネーター7名の委嘱の継続や、文部科学省補助金地域イノベーションエコシステム形成プログラムに係るベンチャーの設立等の成果があがっている ・様々な活動が活発に行われていることは分かるが、計画に対する進捗状況が良好なのかどうか、記載だけからは判断ができない。<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況が分かるように記載いただきたい。（保留）</u> 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標について、多くの新しい取組が詳細に追記されており、体制の構築、枠組みづくりという点では十分な進捗がみられる ・中間での IR 室コメント（アンダーライン箇所）で指摘されているが、その結果どのようなイノベーションの創出につながったのかについて具体的な成果の例が記載されていない ・多岐にわたる活動が実施されているが、総合的に見て順調に進行したのかを理解できる指標づくりが必要だと思います。その際、枠組みの構築はその後の活動、この場合は「企業支援を統合的に行う」ことがどの程度推進されたかを評価することが重要となることから、指標もこの点を評価できるものにする必要があると考えられる。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

					<ul style="list-style-type: none"> 各評価指標記載の実績値について数値として示されており、前年度との比較もあり成果は上がっていると判断できる。しかし、目標値としての達成度合いが不明な部分がある。
	3-①-2	（中期計画に記載の評価指標） 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期よりも増加させる。 <産学官連携本部>	3-①-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術相談件数はすでに昨年度を上回るなど取組の成果があがっているが、当該計画の K P I である特許活用率および県内企業との共同研究割合の状況が明らかでない（保留） 第 2 期に対する割合がわからない 共同研究の取組、技術相談件数が順調に推移している 地域との共同研究割合について、また技術相談件数について十分に進捗している。また T-URA による計測相談の伸びが顕著である 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究の取組、技術相談件数が順調に推移している。 技術相談件数や地域との共同研究数等からみた評価は良好であるが、共同研究 1 件当たりの受入金額が先年度よりも減少したことについて十分に原因を解析し、収入増につながる有効な対策を考える必要がある。また、その活動を評価する指標も念頭には置いておく必要がある。 共同研究件数、技術相談件数ともに前年度より伸びており進捗は概ね良好であると判断する。
<中期目標 4> 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。	4-①	国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <研究推進委員会>		<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度中間ではあるが、K P I に係るデータが示されていない（保留） 国、大学、学部などの枠を超えた連携の実績（件数など）はどうなっているのか、論文数以外の成果もフォローする必要があるのではないか（保留） 4-①-2 ではモニタリングがまだ実施できておらず、判断できない（保留） 	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部署からのデータがまだ得られていないためモニタリングが実施されておらず、今後の課題である。（保留） 4-①-1 は進捗状況が概ね良好と考えられるが、4-①-2 が現状で情報がなく、判断が困難であることは、目標に向けて取組みを進める環境が整備されていないことを意味することから、4-①としては不十分と判断する。 記載方法の工夫や早期のモニタリングが必要である為保留とする。（保留）
	4-①-1	（目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 <研究推進委員会>	4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携支援を受けた研究者の満足度も成果のエビデンスとなるのではないかと 多くの取組について、順調に推移している 私費による外国人大学院生の数や、留学生全体の学位の取得数、国際共同研究の MTA 締結数 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際研究支援（4-①-1-4）については今後の課題である。 中間から年度末で 4-①-1-4 の記載内容が減少している。再度正確に記載されているかを確認していただきたい。進捗率の算定根拠も明らか

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>などはフォローされているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の取組みに沿って概ね良好に進捗している。一部評価指標に対する記載のない部分がある ・ 別途確認も行ったが、<u>評価指標や「具体の取組」の計画に対する進捗状況（特に検証と見直しの状況）が分からない。年度末にはその点が分かるように記載いただきたい</u>（保留） 	<p>ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各取組みにおいて進捗状況は順調と思われるが、たとえば 4-①-1-2 の URA、事務職員、CD 等の支援体制はもう少し具体性があるとよいのでは。検証と見直しに関する記載についても同様である。
	<p>4-①-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期よりも増加させる。</p> <p><研究推進委員会></p>	<p>4-①-2-1</p> <p>4-①-2-2</p> <p>4-①-2-3</p>	<p>(検証結果)</p> <p>保留</p>	<p>(検証結果)</p> <p>保留</p>	
			<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度中間でもあり、具体的な数値が示されておらず、計画がどの程度達成できているのか明らかでない（保留） ・ モニタリングによる把握ができていない ・ 学部（部門）の研究成果について、学術誌への掲載と学会発表の調査は「年度毎」で行うことが適切ではないか ・ 年度末に改めて検証をお願いしたい（保留） ・ 総合 DB によるモニタリングの進捗がその過程とともに不明であり保留とする（保留） ・ モニタリングがまだ実施できておらず、判断できない（保留） 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署からのデータがまだ得られていないためモニタリングが実施されておらず、今後の課題である。（保留） ・ 第 2 期の実績の明示、および今期のモニタリングの実施と実績把握を進めていただきたい。（保留） ・ 判断できる状況にないが、この状況が続いていることが一番の問題のようにも感じます。 ・ 第 2 期との比較、第 3 期のモニタリング等の条件や結果が揃っておらず保留とする。（保留） 	
	<p>4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。</p> <p><産学官連携本部></p>		<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	
			<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省提出年度計画では「リサーチ・アドミニストレーション指針を策定」となっているが、その方針は実際に策定されたのか明らかでない ・ 様々な取組がなされているが、<u>年度中間ではその成果(外部資金獲得状況)が十分とは言えず、本年度後半の向上を期待したい</u> 	<p>(コメント)</p>	
	<p>4-②-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研</p>	<p>4-②-1-1</p> <p>4-②-1-2</p> <p>4-②-1-3</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>究資金の獲得等を行う。 <産学官連携本部></p>	<p>4-②-1-4</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画で予定された取組がなされている ・4-②-1-1 について、当初年度計画では「活動従事者数の妥当性評価」をすることとなっているが、評価がなされたのか明らかでない ・近年非常に活発になってきた印象を持っているが、各指標からについての記載内容からは具体的な成果がまだ見えにくいように思う ・具体の取組みに沿って概ね良好に進捗している。特に RA 活動従事者数の妥当性評価と必要に応じた人数調整では、T-URA の配置において成果がでている ・年度末には、<u>計画にある「検証と見直しの状況」についても明記いただきたい</u> 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組がなされており、活発に活動していると考えられる ・外部研究資金の獲得に向けた具体的取組はまだなされていない ・人員配置に係る取組の概要は記述されているが、それがどのような必要性にもとづくものであり、結果として妥当な配置であるという視点からの記述が望ましい。 ・全体としては活発な活動の結果、多くの成果を挙げていると思われるが、中間時に指摘のあった、4-②-1-1 における「活動従事者数の妥当性評価」については、年度末においても明確にはなっていない ・URA 等の体制では T-URA の取組や、「産学官金連携 CD」の引き続いての取組等の様々な活動による成果が上がっている。進捗は良好と思われるが検証と見直しに係る記載方法を工夫すると良いと思われる。
		<p>4-②-2 （中期計画に記載の評価指標） — <産学官連携本部></p>	<p>4-②-2-1 4-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の主な KPI である外部資金獲得状況は共同・受託研究の件数以外昨年度同時期に比べ低い値となっている。本年度後半の成果を期待したい ・4-②-2-2 について、専門人材数としてどの程度が最適で (4-②-1-1 にも関連するが)、現状ではどうなのか、明らかでない (進捗不十分) ・多くの取組について、詳細に記載され、順調に推移していると判断できる ・外部資金の獲得においては件数に伸びがあり進捗は順調と判断するが、獲得額の減についての原因分析等の記載が必要と思われる。また研究支援専門人材数の適正人数の考えが分かるとよい ・年度末には、<u>計画にある「学内に周知」の状況についても明記いただきたい</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各キャンパス、各部門別の比較も必要ではないか。 ・資金の獲得額と、人員配置の工夫とを連動させて記述することが望ましい。 ・獲得額減の原因は大型プロジェクトの終了によるところが大きいことは理解した上で、獲得額を増やすことは本質的な問題であり、URA 等による支援体制の強化・充実を図り、獲得額増に取り組む必要があると考える。 ・外部研究資金の獲得額が減少しているが、減少した理由等の記載があり、モニタリングはされている。今後も外部研究資金の獲得増に向けた取り組みが必要である。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p><中期目標 5> 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。</p>	<p>5-① IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <産学官連携本部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>(コメント) ・当該目標では「適切な評価を実施した結果、研究水準が向上した」としたいが、これを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい</p>	<p>(コメント) ・今後、より長期における研究評価のあり方や、評価結果の教員へのフィードバックを効果的に行うための工夫など、より実効性を伴う取組みを進めて欲しい。</p>
	<p>5-①-1 (目標を実現するための推進方策) IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。 <産学官連携本部></p>	<p>5-①-1-1 5-①-1-2 5-①-1-3 5-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>(コメント) ・各取組みが順調に進んでいる</p>	<p>(コメント) ・計画通りの取組みがなされたと思われる。 ・順調な取組状況である。なお、評価軸の設定について整備状況具体性がみえてこない。</p>
	<p>5-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <産学官連携本部></p>	<p>5-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 保留</p>
			<p>(コメント) ・当該計画では財政的支援だけではなく、人的支援を行うとしているが、それに係る資源配分はなされているのか確認願いたい。 ・取り組みの成果を今後どのように戦略的な研究資源配分につなげていくのが課題である ・IR を活用したモニタリングはできているが、支援実績の記載が必要</p>	<p>(コメント) ・定量的側面と定性的側面と評価指標の作成が今後の課題である ・モニタリングとその結果分析を、どのように各部局等へフィードバックするか見通しを示していただきたい。(保留) ・取組は順調に進行し、成果をあげている。今後、知財以外の収入についても投資効果を評価する仕組みを考えていただきたい。 ・具体的資源配分の状況の把握ができない。(保留)</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント	平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画の K P I は今のところ目標値等を達成しておらず、本年度後半の成果を期待したい（進捗不十分） ・当該計画では「卒業生の地域定着を推進するため」をあげており、その目標値達成がなされるよう、さらなる工夫をいただきたい（進捗不十分） ・文科省提出年度計画にあげた「一元的に管理する体制を構築」は達成できたのか明らかでない（進捗不十分） ・当該目標は「<u>地域の人材養成と課題解決に寄与する</u>」が目的となっており、其々の中期計画についてそれが達成できたとする具体的なエビデンスを検討いただきたい（進捗不十分） ・COC+事業に関する組織整備や取組は順調であるが、社会貢献活動に参加している教員の割合が目標値に届いていないことなど、KPI の面からは厳しい状況にある</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である。</p> <p>(コメント) ・総合データベースが結局有効活用されていないこと、卒業生の地域定着という重要な目標の指標となる修飾率が目標値に達していないことが問題である。（進捗不十分） ・地域社会と連携した地域志向教育実施体制が整備され、5 大学が連携した地域志向教育が実施され、アドバイザーボードなどの外部評価も着実に実施されている。 ・卒業生の地元定着率は中期計画の評価指標にあげられていないが、当初の目標達成が困難な状況にある。</p>
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・1-①-1-1 について、当初年度計画で「一元的に管理する体制を構築」としているが、そのような体制が構築できたのか確認いただきたい（進捗不十分） ・1-①-1-3 について、概算に係る旧 KPI では基準値 85.4%、目標値 90%以上としていたが、年度中間の時点では基準値に足しておらず、本年度後半の伸びを期待したい（進捗不十分） ・社会貢献活動に参加している教員の割合が 82.13%と目標の 90%に届いていない。その要因の一つに活動の収集漏れがあると思われるが、関係部署の協力のみならず、事務の簡素化を兼ね、兼業申請手続き等が総合デ</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・1-①-1-2 について、松岡キャンパスでは当初の目的であった教員個人が入力することが出来ておらず、結局、データベースに入力することの利点を実感できていない。1-①-1-3 のデータを収集する上でも総合データが有効活用されていないことが明らかである。（進捗不十分） ・1-①-1-1 : COC 推進機構および産学間連携本部等の組織が統合され、産学間連携・地域イノベーション推進機構（地域創生推進本部・産学官連携本部・産業化研究特区）が一元管理する体制が整備された。 1-①-1-2, 1-①-1-3 : 地域貢献活動参加教員が 91.6%と目標値をクリアしていることを確認</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			ータベースに反映させる仕組みの構築も必要であろう	した。ただし、記述欄が異なっている。データベースについては改善の準備は伺われるが、早期の完成が必要。 ・全教員に対する地域貢献活動に参加する教員の割合が 91.62%となり、目標値を達成している。
	1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザリーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構>	1-①-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・昨年度の事業協働地域就職率は目標値に達しておらず、本年度はそれを達成するためにどのような取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・COC+の中間評価では高く評価されたのではないか。これはこれまでの取組が優れていた証左と言える。今後、更なる成果を期待したい（進捗不十分）	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・年度事業協働地域就職率が目標値に達しておらず、その理由として県内出身者が少ないことを上げている。県内出身者が減少も織り込み済みで、目標値を設定するべき。あるいは、県外出身者の就職率が以前より有意に上昇したことを示すデータが必要である。（進捗不十分） ・全国の COC+大学を招いたサミットの実施、ふくい地域創生士によるアドバイザリーボードが予定通り実施され、外部からの意見を収集し、改善につなげている。 ・福井大学の地元定着率は目標に達していないが、県内出身者の地元定着は改善している。
1-②	地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <COC 推進機構>		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・一部数値データはないが、進捗は概ね良好と思える。 ・当該計画は「 <u>社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与</u> 」、「 <u>次世代を担う人材創出</u> 」および「 <u>地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献</u> 」を目的としているが、その達成状況をどのように示すのか具体的なエビデンスを検討いただきたい ・1-②-1 および 1-②-2 については、地域コア科目の必修化を伴うカリキュラムの見直し、「ふくい地域創生士」の認定と事後教育の実施、ならびに創生士および「ふくい地域創生アワード」創生士の認定基準の明確化などが順調に進捗している。一方、地元学生の受け入れについ	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-②-4-1 について、中間評価で指摘された項目であるが、具体的な取り組みの開始とその後の改善効果があきらかでない。 ・COC+関連では、地域志向教育の体制が整備され、ふくい地域創生士およびアワードの基準の制定や排出が計画通り行われ順調に進捗している・しかし、地元定着率が低いこと、事業終了後の計画策定などの課題も残る。 ・地域の児童生徒への先進的教育提供は概ね実施されていることを確認した。一方で、受講者を本学で受け入れ、地域社会発展につなげようとする取り組みについては工夫が必要と思われる。 ・生涯学習市民開放プログラムについては総括と見直しを行うべき時期にある。

			<p>ては、地域枠入試や奨学金制度が検討段階であること、卒業生の定着率については前年度から大きく低下し厳しい状況にある（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習市民開放プログラムについては総括と見直しを行うべき時期にあると思われる（進捗不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部以外のキャリアアップ教育については、進捗状況の記述が少なく要改善。
	<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「地域志向・実践系科目数を増加させる」としているが、K P Iとして実際に増加しているのか確認いただきたい ・当該計画のK P Iとなる「ふくい地域創生士」の資格修得者数は目標値を達しているのか確認願いたい（保留） ・1-②-1-3について、アクティブラーニング科目数は増加しているのか、それに連動して受講数は増加しているのか、さらに受講者の満足度は向上しているかなど、取組の進捗を示すデータを提示いただきたい（保留） ・1-②-1-4について、H31 までに社会人受講者 20 名以上を指標としているが、これまでの受講者数は目標値を達しているのか確認願いたい（保留） ・1-②-1-5について、参加者数 100 名以上、科目の整備 2 科目は達成されているのか確認願いたい（保留） ・数値データがないため進捗の状況が明らかでなく、そのため「保留」とした（保留） ・1-②-1-1 ○ ・1-②-1-2：地域コア科目の必修化や「ふくい地域創生士」の認定は実現しているが、地域枠入試や奨学金制度は検討中であり早期の導入が望まれる。 ・1-②-1-3：アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の要素を取り入れた科目は開講されているが、国際地域学部などで実践科目 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域志向・実践系科目数が着実に増加し、福井大学が提供する科目も増加している。 ・アクティブラーニング・課題解決能力を身につけさせる要素のある科目の年度ごとの増加状況がわかる記述をお願いしたい。 ・1-②-1-5：評価指標である地域の国際化に関するセミナー・シンポジウムの開催と参加者数の状況の記述をお願いしたい。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				の効果の検証も必要であろう。	
	1-②-2 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。 <COC 推進機構>	1-②-2-1	1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
				(コメント) ・1-②-2-3 について、ふくい地域創生士の地元定着率（ひいては県内就職者数の維持）は目標値と比べどのような状況か確認願いたい。また、準ふくい地域創生士とは何か ・1-②-2-1 ○ ・1-②-2-2 ○ ・1-②-2-3 ふくい地域創生士の地元定着率は 67%	(コメント) ・共通教育部の範囲内では進捗状況は概ね良好であるが、各学部ごとの教育の範囲では進捗率 0 ということになっている。高度専門職業人の養成と地域への定着という目標からは、卒業までのこの目標に対する継続的取り組みが明らかでない。 ・1-②-2-3 について：具体的取組中の、準ふくい地域創生士はふくい地域創生士、創生士はふくい地域創生アワードに修正する必要がある。
	1-②-3 グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。 <地域貢献推進センター>	1-②-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	
			(コメント) ・様々な取組みが実施されており、成果もあがっている。 ・当初年度計画で「次世代人材育成支援活動参加教員の割合」を評価指標？としてあげられているが、これはどうなったのか ・1-②-3-1 ○	(コメント) ・標記指標の「延べ○○名」の部分は不明確で、要修正 ・本計画は、地域の児童生徒を対象としており、進捗状況記載の課題探求プロジェクトやアクティブラーニングは対象外ではないか？ ・GSC は計画通りで○	
	1-②-4 地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 <地域貢献推進センター>	1-②-4-1	1-②-4-1 1-②-4-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
				(コメント) ・1-②-4-1 について、市民開放プログラムの科目数や受講者数が減少傾向にあるが、向上させるよう工夫願いたい。また、KPI として受講者等の満足度を上げているが、現状はどうか、向上しているのか等確認願いたい ・1-②-4-2 について、様々な取組みが行われているが、概算に係る旧 KPI（受講者数、満足度の向上）はどのようにになっているのか確認願いたい	(コメント) ・1-②-4-1 について、年々、開放数が若干減少傾向にあり、科目数の減少及び受講者の高齢化に対する対策がなされていない。（進捗不十分） ・医学系および教員養成系以外の分野での取り組みとその成果が不明である。（進捗不十分） ・1-②-4-1：・受講者減の対策として、B 群科目を開放してほしいという意見を反映すべきである。 ・評価指標にある「現状維持又は 5%向上を目指

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<ul style="list-style-type: none"> ・1-②-4-1 生涯学習市民開放プログラム受講者は、B群科目の廃止と受講者の高齢化により漸減が抑制できず、対応が不十分である ・1-②-4-2 医学系および教員養成系以外の分野での具体的キャリアアップ教育の成果が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> す」との文言に関する進捗の記載が確認できない。 ・1-②-4-2：教育の中期計画に記述があると思うが、教育学部関連の記載がない。教員のキャリアアップ教育はここに記載すべきでは？ ・国際地域学部も記述がない。社会人入学を期待する専門職大学院のためにもここでの記載が必要ではないか。
1-③	教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 ＜COC 推進機構＞			<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の主要な K P I は「雇用創出と地域創生に貢献」であるが、達成できたとする具体的なエビデンスを検討いただきたい ・文科省提出年度計画には「10 のWGにおいて具体的な内容を実施する」としているが、それは以下の進捗状況の取組に含まれているのかわらかでない 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出と地域創生というキーワードに適合した成果が上がっていることを示す具体的なデータがない。（進捗不十分） ・教育学部及び医学部のキャリアアップ教育については着実な進捗が確認できる。 ・本学と COC+参加大学の強みを生かした分野の研究・取組の実績は確認できるが、新規雇用への効果は確認しがたい。
	1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。 ＜広報センター＞	1-③-1-1 1-③-1-2		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-③-1-1 について、様々な広報活動が行われているが、その活動状況は昨年度よりも向上しているのか確認願いたい ・1-③-1-2 について、当初年度計画で挙げられている取組（「見せるか」システム整備）がなされていない。 ・1-③-1-1 大学 HP のページビュー回数が示されたが、その推移の分析も必要。 ・1-③-1-2 高校生・保護者の閲覧手段はスマホ主体であるため、それを前提とした情報発信の検討も望まれる。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS を利用した情報発信がある程度有効であることがわかるが、どの記事をどのタイミングで、どのように発信するかの基準と整備が必要。 ・1-③-1-1：K P I としてシステム利用者+10%を設定している。様々な広報活動が行われているが、その増加率を示す必要がある。 ・1-③-1-2：受験生向けHP刷新の効果に期待したい。
	1-③-2 地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。 ＜COC 推進機構＞	1-③-2-1		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携事業数及び派遣教員数は昨年と比較して向 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI に照らして、提示された数字が目標を達

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>上しているか確認願いたい。また、当初年度計画では「地域のニーズと大学のシーズのマッチング」をあげているが、これに関する取組や成果が明らかでない</p> <p>・1-③-2-1 ○</p>	<p>成しているのか、改善傾向にあるのかが分からない。</p> <p>・審議会への派遣教員数の維持を確認するためには、年度ごとの人数の推移を示す必要がある。</p>
		1-③-3 地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 ＜COC 推進機構＞	1-③-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・それぞれの部局で、重点分野の研究・教育が進められている ・国際地域学部の課題探求プロジェクトの点検・評価が必要</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・社会貢献に関わる教員割合 90%以上の記述が必要 ・CST, 災害看護, 緊急被爆医療人材などで着実な成果が認められる。</p>
		1-③-4 福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 ＜COC 推進機構＞	1-③-4-1	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「それぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献」としているが、福井大学発商品の開発（それ自体は大きな成果ではあるが）は必ずしも関連しないのではないか（進捗不十分） ・当初年度計画では様々な取組みが予定されているが、それらが実施されているのか明らかでない（進捗不十分） ・当該計画では「地方創生推進事業参加大学の連携」がキーワードの一つとなっているが、これに係り取組み・成果が明らかでない（進捗不十分） ・本学と COC+参加大学が強みを持つ分野での共同研究等の成果は限られており、その促進が必要である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・興味深い取り組みが行われているが、その取り組みによりどのような雇用創出、地域創生につながったのかが不明確である。（進捗不十分） ・特色分野について連携大学との共同研究や取り組みについては一定の実績があり、F スクエアでの合同発表会などで地域への発信も行っている。一方で、新規雇用先の確保につながるような成果は乏しいと判断できる。</p>
＜中期目標 2＞ 地域の教育研究拠点として	2-①	三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第 3 期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p>の機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p>	<p>上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっており、法人評価に大きく寄与するもので、十分な成果を期待したい。これに関連し、「地域の教育力が向上した」ことを示すエビデンスを検討願いたい ・教員就職率の評価指標達成は困難な状況と思われる（進捗不十分） 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標に到達しているのか不明な指標があるのと、教員就職率、占有率が目標に到達していない。（進捗不十分） ・現職教員の再教育については十分な貢献をしていると思われる。一方で、新教員養成の面では K P I を達成することは困難な状況であり、早急な改善・対策が必要と思われる。（進捗不十分） 	
	<p>2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-2については、実績値はまだ確定しないと思うが、それ以外の取組については目標値等を達成している ・2-①-1-1 ○ ・2-①-1-2 学部ならびに大学院の教員就職率の評価指標達成は困難な状況 ・2-①-1-3 教職大学院修了者の就職率 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-2 について教員就職率が目標に達していない。 ・他の項目についてはおおむね達成している。 ・2-①-1-1 更新講習割合 ○ ・2-①-1-2 教員就職率および教職大学院修了者の就職率は目標を大きく下回っている。この対処について検討された。2-①-1-3 現職教員研修関与の件数の記述がない。2-①-1-4 拠点・連携校○（進捗不十分）
	<p>2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保」としており、現状ではどの程度確保できているのか確認願いたい ・学校教育支援がなされているが、評価指標としてあげている「活動について、年平均各教員 1 回以上」はいかがか 	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI で設定した教員数が確保できたのかが不明です。予算措置をして実際に何名配置されたのか、その結果の評価ができていません。（保留） ・当該計画では「学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保」としており、現状ではどの程度確保できているのか確認願いたい。（保留） ・学校教育支援がなされているが、評価指標としてあげている「活動について、年平均各教員 1 回以上」はいかがか。（保留）

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第3期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 <教育学部></p>	<p>2-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・実績値はまだ確定しないと思うが、それに向けた取組みがなされている ・学部卒業生の合格状況が示されているが、教職大学院修了者のそれも示すべき</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・教育就職率、占有率のどちらも目標を下回っている。(進捗不十分) ・教員就職率 70%以上、大学院の教員就職率概ね 100%を維持という目標に対し、49.5%と 63.6%と厳しい状況にある。(進捗不十分)</p>
	<p>2-② 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、<u>法人評価に大きくかかわるので、十分な成果を期待したい。特に、「地域医療の向上に貢献できたとするエビデンスを」とするより具体的なエビデンスを検討願いたい</u> ・当該計画の K P I としてあげた「地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増」については、どのような状況か随時把握願いたい ・他職種参加型セミナーなど、開催計画、予定が組まれているが、その成果および、その実効性が不明なものが多い。IPE 実習など学生の参加者数の数値目標が不明であり、目標に達したかの評価が困難である。(進捗不十分)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-②-1-2、2-②-2-1、2-②-3-1 の各項目について進捗状況が不十分である。</p>
	<p>2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。 <医学部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-②-1-1 について、予定の取組が進められているが、受講者数及び満足度は向上しているのかわからず ・2-②-1-3、-4 について、昨年度同時期に比べ、取組数、参加者数は増加しているのか確認願いたい。また、後者について、文科省提出年度計画では「医道審議会の2か所以上参画」としているが、ここで挙げた件数は参加者数なのか確</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・2-②-1-1 は予定の数値目標は達成できているが、アンケート調査の結果の記載が冗長であり、整理した記載が望まれる。(進捗不十分) ・2-②-1-2 辞退率が平均 16.6%と高いのが問題である。H29 年の辞退率が 27.3%と高値を示した翌年の H30 年の辞退率が 5.9%に低下しているのが辞退阻止対策の効果か否かが今後重要な問題となる (進捗不十分)</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>認願いたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種参加型教育セミナーのほとんどが計画中となっているだけでありその参加者数やその参加者の満足度など、その企画の実効性が評価できていない ・IPE 実習に関しては、看護学生および医学生の単位取得者が出たことは評価できるが、学生全体に占める割合が少ない ・講演会、地方自治体との連携事業などの取り組みを 20% 増とした数値目標は達成できている（進捗不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-②-1-3 件数が前年よりも減少しているのは問題である。（進捗不十分） ・2-②-1-5 第 6 回プラチナ大賞がどのような団体がどのような基準で出している賞であるかが不明なため、その価値が評価できない。（進捗不十分）
	<p>2-②-2 さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。 <医学部></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 について、実証試験としては何件実施したのか確認願いたい ・センシング型見守りセンサーに関しては、昨年度進捗が芳しくなかったが、本年度に入り、進捗がみられてた点は評価できます。ただ、昨年度の遅れをとりもどす努力が必要と思われます。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 テキストマイニングに基づき、プログラムを作成したり、センサーを変更したりしているが、そのプログラムや変更したセンサーを用いての実証試験が何件したかが不明であり、進捗状況としては不十分である ・2-②-2-2 に関しては進捗状況は良好である。 	
	<p>2-②-3 関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部></p>	<p>2-②-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況は不十分である</p>	
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井メディカルネットの利用促進会開催による実質的効果が不明である。 ACP 情報の共有を提案してはいるが、その結果が不明である。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-3-1 で 2 ヶ所以上の外勤先医療機関で利用促進会を開催する計画となっているが、院内の診療科でのみしか利用促進会が開催されていない。（進捗不十分） 	
	<p>2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の目的である「持続的な技術移転や共同研究成果の創出」に係る具体的な成果を期待したい。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部、情報共有や対話が行われたことはわかりなすが、その結果、具体的な共同研究などの成果がでていないか不明な点があります。 ・設置された評価指標については概ね計画通りで 	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>あることが確認できた。一方で、産学連携の成果としての新産業・雇用先の創出などの地域貢献、共同研究による外部資金の増加など、具体的な成果についても期待したい。</p>
	<p>2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・地域の複数企業、団体が参加する共同研究の現状が不明 ・当初年度計画であげた「集合イベントや個別コンタクト意見交換」の回数等は予定どおりなのか確認願いたい ・「研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信」の状況はいかにか</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-③-1 の評価指標に記載の、共同研究、クロスアポイントなどの実績を確認できない。 ・2-③-4 の評価指標の産学官が共用できる設備数の増大（50 設備程度）については、35 設備程度に留まっている。</p>
	<p>2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-③-2-1 について、K P I の目標値に実績値は達しており、進捗は良好である ・2-③-2-2 について、協力会分科会活動に係るセミナー件数等は当初予定どおりか確認願いたい ・2-③-2-3 について、技術相談件数は目標値に達しているなど、進捗は良好である ・2-③-2-1 進捗状況の記述で共同研究件数が 169/194 件とあるが、169 件が地域との共同研究と理解して良いなら順調に推移している ・2-③-2-2 ○ ・2-③-2-3 ○ ・2-③-2-4 評価指標の「地域の産学官が共用できる設備数の増大（50 設備程度）」を文字通り実現することは難しいのではないか？評価指標の修正が必要と思われる。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-③-2-1 について、相談した、紹介した、情報交換を行ったと、記載されているが、その結果、実際に産学協同研究に結び付いたのかどうかの成果が不明です。 ・本中期計画では多数の評価指標が設定されており、個々の指標については概ね順調に進捗していることが確認できた。 ・評価指標には入っていないが、地域との共同研究の成果としての特許、発表論文のような具体的な成果についても言及頂きたい。 ・2-③-2-4 評価指標の「地域の産学官が共用できる設備数の増大（50 設備程度）」のクリアは厳しい状況。</p>
	<p>2-④ 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

	<p>した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。</p> <p><国際地域学部></p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」となっている、法人評価に大きくかかわるので、十分な成果を期待したい。(進捗不十分) ・細分化した計画の中に進捗不十分となる計画があるため、全体の進捗を不十分と判断した(進捗不十分) ・当該計画の主な K P I は「連携授業および共同研究の連携先数の増加」であり、この指標に関する実績はどうか確認願いたい(進捗不十分) ・本計画では国際地域学部が先導すべき内容であるが、共同研究実績が未記入であること、地域と連動した課題解決型科目の成果に対し厳しいコメントがあげられていることなど改善すべき事項が見受けられる。地域連携協議会の大学院設置構想に対する意見をどのように反映するのか？(進捗不十分) 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目の達成状況が概ね良好と判断できる域に到達していない。(進捗不十分) ・連携先や共同研究・事業の件数については着実に増加しており評価できる。(進捗不十分) ・地域連携協議会からの連携授業・課題探求の成果についての指摘,ならびに大学院設置構想委関するコメントに対する回答を用意されたい。(進捗不十分) 	
	<p>2-④-1 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。</p> <p><国際地域学部></p>	<p>2-④-1-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究」がどの程度進んでいるのか明らかでない。例えば、実施研究数やその成果などを確認願いたい。その際、地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題との関連も明らかにしていただきたい(進捗不十分) ・国際地域学部の自治体との連携実績や共同研究成果が未記入 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016-2018 年度にかけての事業件数の推移をみるかぎり、件数の増加傾向は認められず、停滞している印象をうける。産学連携本部の共同研究を行う教員数も期間内の延べ人数を期しているのみで、計画当初の目標に対し、この人数でどの程度目標が達成しているかが不明である。(進捗不十分) ・評価指標は、共同研究の連携先数を増加との記述があるが、進捗状況では部局ごとの件数が記述されており、連携先数が不明である。
	<p>2-④-2 地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。</p> <p><国際地域学部></p>	<p>2-④-2-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に目標の連携先延べ数を超えているが、さらに向上しているのか確認願いたい ・「地域創生の核となる人材が育成できた」こと 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先の数は順調に増加している印象を受けているが、その連携によりどのような成果が達成できているかが不明。映画上映会を具体例とし

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				を示すエビデンスを検討願いたい ・連携先の数の上では○	てあげているが、上映会が課題解決型能動的学習となる根拠が分かりづらい。（保留） ・連携先の数の上では○
		2-④-3 国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。 <国際地域学部>	2-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が不十分である
				(コメント) ・○地域連携協議会は実施され取組のチェックが行われていることを確認したが、現在の状況を見ると、アドバイザーボードとしては機能していないように思われる	(コメント) ・地域連絡協議会が開催されて、問題点の指摘を受けたことは理解できるが、その改善策に関してどのような提案がアドバイザーボードから挙げられたのか、どのような検討が行われたかが不明であり、アドバイザーボードとしての役割としては物足りない。（進捗不十分） ・地域連携協議会の開催は確認できた。 ・大学院構想については、入り口と運営に厳しい意見が提出されているが、設置を申請しており、アドバイザーボードとして機能していないように判断できる。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【グローバル化】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント	平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。	1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議>		(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント)	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント)
	1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会>	1-①-1-1 (1-①-1-1-1~4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1~3) 1-①-1-3 1-①-1-4	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・海外協定校数の目標値をすでに大きく超えており、順調に進捗している ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H30.10.1 現在で 34 ヶ国・地域の計 153 校 (大学間協定 83 校、部局間協定 70 校) となっている	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・海外協定校数の目標値をすでに大きく超えており、順調に進捗している ・「留学生同窓会組織との連携の拡大」についても、予定を越して 2 支部を開設している。 ・H31.3 現在で大学間協定は 85、部局間協定は 74、合計 159 校 (35 か国・地域) である。H. 28.3 と比較し、 <u>大学間は約 130%、部局間</u> は約 34%、合計で約 80%増加している。 ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H31.3.31 現在で 36 ヶ国・地域の計 156 校 (大学間協定 85 校、部局間協定 71 校) となっている
	1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増加させる。 <国際企画会議>		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画は「 <u>戦略性が高く意欲的な計画</u> 」 <u>となっており、法人評価に大きく寄与するものであり、十分な成果を期待したい</u> ・具体的な方策としてあげている事項については、少なくとも成果が示せるよう検討願いたい	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画は「 <u>戦略性が高く意欲的な計画</u> 」 <u>となっており、法人評価に大きく寄与するものであり、十分な成果を期待したい。</u> ・文科省提出年度計画では「本学 HP 上に掲載校を順次増やす」としているが、実績はどうか？
1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。	1-②-0-1 (1-②-0-1-1~5) 1-②-0-2	(検証結果) 進捗状況が良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p><国際センター></p>	<p>1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入外国人留学生数の目標値をすでに超えており、順調に進捗している。派遣学生数の伸びも順調と思われるが、短期、中長期と分けた場合の后者の派遣学生数は向上しているのか、確認いただきたい ・当該計画では「国際地域学部を中心とした次の具体の取組により」としているが、これを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H30.10.1 現在で 234 名となっている。(中間進捗状況時 236 名であったが、留学辞退及び在籍期間が満了した者がいたため修正) 海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H30.9.30 現在で 176 名となっている 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣日本人学生数は 303 名となっており、目標値を達成しているが、<u>外国人留学生数は平成 30 年 10 月時点のものであり(すでに目標値を超えているが)、平成 31 年 3 月末のデータを示してほしい</u> ・当該計画では「<u>国際地域学部を中心とした次の具体の取組により</u>」としているが、これを示す具体的なエビデンスを示すべきである。 ・年度計画として 1-②-0-4 について、この取組によって正規留学生を受け入れることができたのか、明らかでない。さらに、支援体制を平成 31 年度に構築するとしているが、是非構築いただきたい(さらに、その成果を示すエビデンスを収集いただきたい)。 <p>《受入外国人留学生数》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27 年度後期 g と H30 年度後期を比較すると増加率は約 34%、内、<u>非正規留学生数の増加率は 74%、一方で、正規留学生数の増加率は 8.5%である。H30 年度後期は、非正規留学生数(120 名)が正規留学生数(114 名)を初めて上回った。</u> <p>《海外派遣日本人学生数》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30 年度に海外研修プログラムおよび交換留学プログラム参加学生に支給された奨学金(JASSO、福井大学)の数を確認いただきたい。 ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H31.3 月末現在で 234 名となっている。また、海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H31.3 月末現在で 303 名となっている。
		<p>1-②-1 外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 <国際センター></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部局で外国人留学生を受け入れているが、当該計画では「海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備」をあ 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この取組の結果として、それぞれの部局で外国人留学生を受け入れているが、<u>当該計画では「海外派遣プログラムの一層の充実、</u>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>げており、これらに係る取組み・成果が明らかでない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイニングプログラムを拡充するとしているが、その成果は上がっているのか ・学術交流協定校からの交換留学生に、福井大学基金を利用し奨学金の枠を設け、平成 30 年度後期の受入学生から給付を実施する予定である ・より多くの海外派遣学生に奨学金を給付できるよう、次年度以降の JASSO 奨学金のあり方について、H30.8 月の国際センター運営委員会にて議論を始めた 	<p><u>支援体制の整備</u>をあげており、これらに係る取組み・成果を示してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MJHEP での受入人数推移を確認差 s 手いただきたい。 ・福井大学基金から奨学金を設け、学術交流協定校からの交換留学誠意に給付を開始する予定になっているが、支給内容と成果を共有いただきたい。 ・学術交流協定校からの交換留学生に、福井大学基金を利用し奨学金の枠を設け、平成 30 年度後期受入から、4 か国・地域の 11 名の留学生に給付を実施した。 ・より多くの海外派遣学生に奨学金を給付できるよう、次年度以降の JASSO 奨学金のあり方について、H30.8 月の国際センター運営委員会にて議論を始め、H30.10 月に JASSO へ申請した。
	1-②-2 ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-②-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ナンバリングやカリキュラムマップは整備されているが、それが留学生に役立つかたち（英語化など）となっているのか確認いただきたい ・当該計画の 1 つの K P I は「留学生に役立つ」であり、それを示すエビデンスを検討いただきたい</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・この計画では「<u>留学生に役立つ</u>」がポイントであり、そのような教務体制が構築されたのかに係るエビデンスを示して頂きたい。(保留) ・ナンバリング、カリキュラムに加え、単位制度、評価制度、開講科目リスト、シラバス、履修手続等、留学生に十分周知するために、学期開始のそれくらい前に、どのような形で（手段、および英語化、多言語化など）受入外国人留学生に案内されているのか確認いただきたい。</p>
	1-②-3 ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞	1-②-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・国際地域学部では UCLAN とのダブル・ディグリー制度の構築を進めているが、是非遅くとも来年末までに構築いただきたい（法人評価対応のため） ・調整中とのことであるが、どの程度の実現</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・UCLAN とのダブル・ディグリー制度が構築されており、是非派遣実績をあげていただきたい。 ・UCLAN の学位取得プログラム参加予定者が辞退することとなったため、同プログラム</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			可能性があるのかよくわからない	への次の学生派遣は 2020 年秋学期～2021 年春学期の 1 年間になる。 ・UCLAN 以外の大学との学位取得プログラム、単位取得を目的としたジョイントプログラム(JP)、あるいは、単位取得を目的としない JP について、いつまでに何を構築するか検討が必要と考える。
1-②-4 外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞	1-②-4-1 1-②-4-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
		(コメント) ・外国語HPのアクセス数をフォローいただきたい。また、これら情報発信が留学生にどの程度利用されたかもエビデンスとなるではないか（進捗不十分） ・文科省提出年度計画では「国際交流・留学関連情報を追加・充実する」としているが、それに係る取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・平成30年3月末に、内容を充実させ英文パンフレットを国際課と広報室にて共同し作成した。2019-2020年度版についても、広報室と協働し、各学部等へ原稿依頼を行っているところである	(コメント) ・国語HPのアクセス数をフォローいただいたが、できれば年度推移を示すことができるか（充実のエビデンスになります）。 ・ホームページのページビュー数について、一昨年、あるいは昨年との比較は可能でしょうか。ビュー数増減の推移を確認させていただきたい。 ・英文パンフレットは、紙媒体およびデータで提携校に送付し、(海外派遣日本人学生のために)提携校から大学情報を収集することも目的としているが、今回は何大学に英文パンフを送付し、何大学から情報提供があったか、確認させていただきたい。 ・平成31年3月に、内容を充実させた「2019-2020年度版」英文パンフレットを国際課と広報室にて協働し作成した。翌年度早い時期に海外協定校へ送付する予定である。	
1-②-5 学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第2期中期目標期間末と比較して、それぞれ15%増やす。 ＜国際センター＞	1-②-5-1～16	(検証結果) 進捗状況が良好である	(検証結果) 進捗状況が良好である	(検証結果) 進捗状況が良好である
		(コメント) ・各部局で様々な取組みによって国際交流を進め、その結果留学生数及び派遣学生数はすでに目標値をクリアしており、十分成果があがっている ・受入外国人留学生数は、第2期中期目標期間末(H28.3)175名であったが、H30.10.1現在で234名となっている。(中間進捗状況時236名であったが、留学辞退及び在籍期間が満了した者がいたため修正)海外派遣日本人学生数は、第2期中期目標期間末	(コメント) ・留学生数のデータは昨年10月の時点であるが、目標値を越している。また、各部局でも様々な取組みによって国際交流が進んでいる。 《受入外国人留学生数》 ・正規留学生数の維持・増加の具体的計画・目標、および、取組について引き続きご検討いただきたい。 《海外派遣日本人学生数》 ・短・中長期留学生数を増加するための具体的計画・目標、および、取組について	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				(H28.3) 206 名であったが、H30.9.30 現在で 176 名となっている	引き続きご検討いただきたい。 ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H31.3 月末現在で 234 名となっている。また、海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H31.3 月末現在で 303 名となっている。
1-③ 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 ＜国際企画会議＞				(検証結果) 進捗状況が不十分である	(検証結果) 進捗状況が不十分である
				(コメント) ・文科省提出年度計画にあげた「平成 30 年度に強化するグローバル化活動を決めてその活動を重点的に支援する」に係る取組みがなされているのか明らかでない ・当該計画の K P I であるグローバル化活動数の状況が明らかでない（進捗不十分）	(コメント) ・当該計画の KPI であるグローバル化活動数の状況が明らかでない。（進捗不十分） ・提出年度計画にあげた「平成 30 年度に強化するグローバル化活動を決めてその活動を重点的に支援する」に係る取組みがなされているのか明らかでない。 ・当該計画の K P I であるグローバル化活動数の状況が明らかでない。（進捗不十分）
	1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 ＜人事会議＞	1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1～5)		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
			(コメント) ・当該計画に沿った教員および職員が第 2 期末に比べどのくらい増加したのか、定量的なデータの収集をお願いしたい。	(コメント) ・教員については計画に沿った採用がなされているが、職員採用の状況はどうか。 ・当該計画に沿った教員および職員が第 2 期末に比べどのくらい増加したのか、定量的なデータの収集をお願いしたい。	
1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 ＜国際企画会議＞	1-③-2-1 (1-③-2-1-1～5) 1-③-2-2 (1-③-2-2-1～4) 1-③-2-3 (1-③-2-3-1～4)		(検証結果) 進捗状況が不十分である	(検証結果) 進捗状況が不十分である	
			(コメント) ・1-③-2-2 について、教員のグローバル化活動数はどのように算出されているのか、周知しているのでしょうか。第 2 期末と比較して 20%増を目標値としているが、現状はどの程度になっているのか明らかでない（進捗不十分） ・1-③-2-3 について、サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動については	(コメント) ・関係するデータの <input type="text"/> を再度依頼して、 <u>必要なデータの収集を進めていただきたい。</u> （進捗不十分） ・なお、サバティカル、ベンチマーキングの実績はあがっている。（進捗不十分） ・2019 年度内にグローバル活動数の登録、および、活動数推移、活動内容、目標値達成についての分析を終わらせるべく、タイムラインを決定して、全学的に取り組む必要	

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>人数とともに、研究成果もエビデンスとして出せるように検討願います（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のグローバル化活動数の把握のために、総合データベース(DB)に入力するよう平成 30 年 6 月 18 日に依頼(7 月末期限)したが、入力状況があまり芳しくなかったため、再度 10 月 29 日(11 月末期限)に再依頼を行った ・グローバル活動数を集計する手段を総合データベースに組み込んだが、回答する教員数が少ないため、定量的に評価できていない状況である。現在、各部局の教授会で直接、入力を依頼した（11 月末が期日）（進捗不十分） 	<p>がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度(H29)の教員グローバル化活動数の把握のために、総合データベース(DB)に入力するよう平成 30 年 6 月 18 日に依頼(7 月末期限)したが、入力状況があまり芳しくなかったため、再度 10 月 29 日(11 月末期限)に再依頼を行った。11 月の各学部教授会等においても、口頭にて依頼を行ったが、相変わらず入力数が改善しない状況である。（進捗不十分） 		
	<p>1-④</p>	<p>単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。</p> <p><附属国際原子力工学研究所></p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画は「戦略性が高く意欲的な計画」であり、法人評価に大きく寄与することから、十分な成果を期待したい ・当該計画では、「原子力人材育成プログラム」および「原子力人材育成国際プログラム」を構築・確立することとしており、それらの体系的などを見やすいような形で明示できるよう検討願いたい 		
	<p>1-④-1</p>	<p>単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する。</p> <p><附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-④-1-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初年度計画にあげた取組みが順調になされており、成果があがっている。特に、文科省事業に採択されたのはその証左と言える ・当該計画では平成 31 年度までに原子力人材育成プログラムを構築するとしており、カリキュラムマップなど体系的なプログラムであることを示せるようにしていただきたい。そのためには、3 ポリシーの策定も必要ではないか、検討いただきたい 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って取組が成され、成果も着実に出ています。 ・当該計画では平成 31 年度までに原子力人材育成プログラムを構築するとしており、カリキュラムマップなど体系的なプログラムであることを示せるようにしていただきたい。そのためには、3 ポリシーの策定も必要ではないか。さらに、インターンシップに対応できるカリキュラムにするということであるが、検証をお願いしたい。

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

		<p>1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-④-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画にあげた取組みが順調になされており、成果があがっている。外国人留学生等の受入を進めているが、その数は向上しているか確認いただきたい ・当該計画では「英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立」としており、その確立状況はいかがか ・当該計画の K P I は「世界で活躍する高度専門職業人の育成」であるが、育成数、能力の涵養状況、関係者の満足度など、目的の人材が育成できたとするエビデンスを検討いただきたい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立」としており、その確立状況はいかがか ・外国人留学生等の受入を進めているが、その数は向上しているか確認いただきたい ・当該計画では「英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立」としており、その確立状況はいかがか ・当該計画の K P I は「世界で活躍する高度専門職業人の育成」であるが、育成数、能力の涵養状況、関係者の満足度など、目的の人材が育成できたとするエビデンスを検討いただきたい</p>
<p><中期目標 2> 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。</p>	<p>2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増）、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 <国際企画会議></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画は「地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献」が目的であり、貢献できたとするためのエビデンスをいかにするか検討いただきたい</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・当該計画は「地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献」が目的であり、貢献できたとするためのエビデンスが示されていない。(保留)</p>
		<p>2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 <国際センター> <ライフサイエンスイノベーションセンター></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-①-1-1 について、取組は順調に進められ、成果があがっている。当初年度計画で「～体制を一層充実させ、全国に向けて発信する体制を構築」をあげているが、これに係る取組みがなされているのか明らかでない ・2-①-1-2、-3 について、多くは「～検討を開始した」など準備段階の取組が多く、具体的な成果は今のところあがっていない。特に、後者において「入試特別枠を国際地域学部で実施」となっているが、実際に実施するのか</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-①-1-1 について、GSC は実績をあげている。他方、「多様な科学者との交流に機会を提供する」としているが、これに関する取組実績はいかがか ・2-①-1-2 について、様々な取組みが行われているが、英語教育の改善に貢献したとする具体的なエビデンスを収集いただきたい ・2-①-1-3 について、「入試特別枠を国際地域学部で実施」となっているが、実際に実施したのか ・「～体制を一層充実させ、全国に向けて発信する体制を構築」とは、ホームページ上で</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>プログラムの情報を全国的に発信しており、応募に必要な書類もホームページ上から入手しやすくした、ということで良いでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-2、-3 について、検討や予定となっていたところは、計画に沿って実施され、成果をあげている。 ・国際地域学部の外国人特別枠には H31 年度入試において中国より 1 名の入学者を受け入れた。今後は、県内 SGH と交流のある海外の高校からも入学者を受入れることが期待される。
	<p>2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増） ＜国際センター＞</p>	2-①-2-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の K P I は「留学生の地域交流活動数の増加」であり、現状の数値を明記していただきたい。また、現状は昨年度同様としているが、20%増は達成できるのか検討いただきたい ・従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、複数の周辺市町の公立及び民間交流団体を加え交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている 	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の K P I は「<u>留学生の地域交流活動数の増加</u>」であり、現状の数値を明記していただきたい。少なくとも、第 2 期末に比ベどの程度増加したのかが明らかでない と進捗状況を判断できない。（保留） ・地域交流活動数の 20%増加の具体的計画を確認いただきたい。
	<p>2-①-3 グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 ＜地域貢献推進センター＞</p>	<p>2-①-3-1 2-①-3-2 2-①-3-3 (2-①-3-3-1~4)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-3-1,2 について、参加者の満足度も聴取願いたい。また、参加者は経時的に増加しているのか確認したい ・2-①-3-3 について、当該計画の K P I は交流の機会数、開講数、参加者数、満足度等であるが、それは経時的に向上しているのか確認したい 	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-3-3 について、当該計画の K P I は交流の機会数、開講数、参加者数、満足度等であるが、それは経時的に向上しているのか確認したい。（保留） ・様々な取り組みを実施しているが、「地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献」ことを示すエビデンスに乏しい。（保留） ・2-①-3-1,2 について、参加者の満足度も聴取願いたい。また、参加者は経時的に増加しているのか確認したい ・2-①-3-3 について、当該計画の K P I は交

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

					流の機会数、開講数、参加者数、満足度等であるが、それは経時的に向上しているのか確認したい
2-②	海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜国際企画会議＞			(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 保留
				(コメント) ・当該計画の目的は「グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献」であり、貢献できたとするためのエビデンスをいかにするか検討いただきたい（進捗不十分）	(コメント) ・当該計画の目的は「グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献」であり、貢献できたとするエビデンスを示していただきたい。（保留） ・「留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施」に関するエビデンスがなく、進捗を判断できない。（保留）
		2-②-1	海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜産学官連携本部＞	2-②-1-1 2-②-1-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
				(コメント) ・日本人学生の海外インターンシップの実績がこれまではあがっておらず、本年度後半に派遣されるのか明らかでない（進捗不十分） ・2-②-1-1 について、当該計画では「海外拠点を持つ地元企業と連携した」としているが、これに係る取組みがなされているのか明らかでない（進捗不十分） ・2-②-1-2 について、海外インターンシップの実績は昨年度のものであり、本年度はこれまで実施されていない（進捗不十分）	(コメント) ・2-②-1-2 について、平成 30 年度は海外インターンシップの実績はないのか？ ・平成 30 年度はインターンシップが実施されていない。平成 31 年度については実施計画は立てられているか確認させていただきたい。 ・2-②-1-1 について、当該計画では「海外拠点を持つ地元企業と連携した」としているが、これに係る取組みがなされているのか明らかでない
2-②-2	外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 ＜国際センター＞	2-②-2-1 (2-②-2-1-1～4) 2-②-2-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	
				(コメント) ・当該計画では「人材育成プログラムの構築と実施を推進」としているが、今回の進捗状況からはそれがどの程度達成されているのか明らかでない（進捗不十分） ・「外国人留学生と地元企業とを早期にマッチング」はなされているのか明らかでない（進	(コメント) ・年度計画に沿った取組みがなされている。しかしながら、当該計画では「人材育成プログラムの構築と実施を推進」としており、今回の進捗状況からはそれがどの程度達成されているのか明らかでない。 ・当該計画では「人材育成プログラムの構築

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

				<p>捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井県では、福井県、福井商工会議所、福井県国際交流協会及び地元銀行が主催し、本学を含む県内 3 大学が協力して、外国人留学生向けに合同企業説明会を平成 29 年度から実施した。県内の海外展開に目を向け外国人留学生の採用に関心のある企業が、一堂に集結し、2 年目となる平成 30 年度は 4 月 15 日(日)午後で開催した。福井県内の企業に就職が決定した留学生には、就職までの期間（最大 6 か月間）、福井県から住宅費相当額が支給される 	<p>と実施を推進」としているが、今回の進捗状況からはそれがどの程度達成されているのか明らかでない（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらサイエンスプランで来福し、福井の産業を理解した高校生が、福井大学に進学したり、交換留学生で在籍したり、というような実績はあるのか確認させていただきたい。 福井県内企業に就職した外国人留学生数の推移を確認させていただきたい。 福井県では、福井県、福井商工会議所、福井県国際交流協会及び地元銀行が主催し、本学を含む県内 3 大学が協力して、外国人留学生向けに合同企業説明会を平成 29 年度から実施している。留学生の県内就職と、企業による留学生の受入環境の拡充をセットで支援し、留学生と地元企業が接点を持ち交流できる場の設定として、大学が県と連携して採用意欲のある県内企業に呼びかけ、留学生限定の合同企業説明会を 4 月 15 日（日）にフェニックスプラザにて、県内企業業界研究会を 2 月 17 日(日)に福井県国際交流会館にて開催し、13 名が参加した。本説明会は、留学生受入れを検討している企業側にも、県内企業に熟知していない留学生側にも双方にメリットがあったと思われる。 地元福井県内の企業に就職が決定した留学生には、就職までの期間（最大 6 か月間）、福井県から住宅費相当額が支給される。
--	--	--	--	---	--

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 30 年度進捗状況（中間）に対する IR 室コメント	平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標				
1 組織運営の改善に関する目標				
<中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。	II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課><財務課>	II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・II-①-1-2 について、昨年度設定したファクトブックが未だ十分に活用されていないのではないかと ・II-①-1-3 について、様々な財務データが収集されつつあるが、それに基づく重点的な資源配分の実績を提示できるようにしていただきたい ・II-①-1-1 について、検討を進めていることは分かるが、何処が中心となってどういうメンバーで検討しているのかが分からないため、具体性に欠ける。 <u>年度末の進捗状況入力の際は、検討結果の実質化を期待する</u> ・II-①-1-2 について、 <u>年度末の進捗状況入力の際は、旧 KPI 以外の特徴 KPI についても、活用状況等をお示し願いたい</u> ・II-①-1-1 で次期学長の選考手続について書かれているが、これが「ガバナンス機能を活かした大学運営」とどのように関係するのか分からない。 <u>関係するのであれば、年度末には関係性が分かるように記載していただきたい。</u>	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・本計画の到達点は、本学機能の最大化であるが、そのようなエビデンスを明確に示すことができるように願いたい。 ・中期計画：本学の諸機能が強化できるよう、ガバナンス体制の点検・見直しが継続的になされているかがわかるエビデンスが不明 ・II-①-1-2：データの収集、活用に向けての取組については、検討され進んでいるようだが、諸機能の強化に繋がったというエビデンスが不明 ・II-①-1-1 について、11 件の規程改正や仕組みの構築を進めたとのことですが、具体的内容が見えにくいので、そのうち 1 件でも具体的な取組内容を記載されてはいかがでしょうか。
	II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成 32 年度末までに医学部においては 16%以上、工学研究科においては 14%以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成 33 年 4 月 1 日までに役員 11.1%に、管理職 10.9%以上に向上させる。 <人事労務課>	II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・II-①-2-1 について、文科省提出年度計画では「クロスアポイントメント制度による外国人教員の雇用拡充」をあげているが、外国人の受入れ状況は向上しているのか、確認願いたい ・II-①-2-2 について、平成 30 年 4 月のデータが提示されているが、年度中期のデータ	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・単に数値目標を上回ったと言うだけでは不十分で、これら施策が、最終的には、教育研究の活性化にどう繋がったことを示す必要があるが、そのようなエビデンスを提示できるように準備願いたい。 ・数値目標の達成状況に関しても、クロアポは、その員数が優れていると評価出来るもの

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>を示していただきたい。変化していなければ結構です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ II-①-2-3 についても、同様に現時点でのデータを確認していただきたい ・ II-①-2-1 について、他機関の勤務経験者の割合を昨年度と殆ど変わらなくても数値で示すべきであり、他機関から採用することは「頭脳循環」を目指していることもあると思われるため、増員するための方策があれば記述してはどうか ・ II-①-2-2 及び II-①-2-3 について、目標を既に達成しているが、雇用拡大したことによって得られた波及効果を記述できないか ・ II-①-2-1 のうち、「他機関の勤務経験を有する教員数の増加」については、教員数が増加しない要因が書かれているだけである。別途確認も行ったが、「他機関の勤務経験を有する教員数の増加」を目指すための具体的な取組が行われているとは読み取れず、教員数も増加していない。進捗状況が不十分であると判断せざるをえない。 ・ II-①-2-2、II-①-2-3 については良好である。（進捗不十分） 	<p>なのかが不明であり、女性管理職は、1 名が辞めれば、目標を達成できないような数値と考えられ、最終的に目標を達成できるのか懸念される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画：計画している教員の登用が進んでいる。今後、女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用が、教育研究の活性化に繋がったというエビデンスがあるとよい。 ・ II-①-2-1：クロス・アポイントメント制度による雇用がすすんでいる。一方で、他機関の勤務経験を有する教員数は伸び悩んでいるが、そもそも中期計画は国際経験のある教員の登用についてであるので、取組の立て方はこれで良いか。 ・ II-①-2-2：若手教員の雇用が各部署において目標値を達しているが、計画や取組の実態はどうか。 ・ II-①-2-3：女性管理職等で、目標の割合を達しているが、計画や取組の実態はどうか。 ・ II-①-2-1、II-①-2-2 及び II-①-2-3 について、評価指標上の数値としては目標値を上回っていますが、目標を達成するための方策や達成の要因についても記載してはいかがでしょうか。次年度以降も継続して目標を達成していくためにも要因分析が必要かと思います。 ・ II-①-2-1 について、進捗状況には「海外の研究機関から受入れた研究者の数」について記載されていますが、年度計画等では「外国人教員の雇用拡充」としています。このふたつの表現には若干のずれがあるように感じます。
--	--	--	---	---

2 教育研究組織の見直しに関する目標				
<p>< 中期目標 II-② > 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直し</p>	<p>II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第 3 期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成 32 年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。 < 経営戦略課 ></p>	<p>II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ II-②-1-6 について、評価結果に基づく組織の見直しについての記述が無いように思うが、検討する予定がないのか ・ II-②-1-6 は、「資源配分の検討を行う」とい</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ II-②-1-6：自己点検評価等の結果に基づく資源配分の検討がなされていない ・ II-②-1-6 については、平成 30 年度に「自己点検評価等の結果に基づき資源配分の検討</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p>しを全学的視点から戦略的に推進する。</p>			<p>う計画に対して、「まだ検討できていない」ということであり、不十分と判断せざるをえない</p> <p>・II-②-1-7については、別途確認したところ、大学院の新設の有無がまだ機関決定されていないということであり、その前提で考えると進捗状況は概ね良好と考えられる。ただ、具体の取組の計画の記載では、「新設する」となっており、新設することが決定事項のように見える。今からでも修正可能であれば、計画を修正していただいた方がよい（進捗不十分）</p>	<p>を行う」としているが、進捗状況の記載内容からは、自己点検の実施には至らず、評価方法の検討ブッシュアップ段階であるように読み取りました。字面では進捗不十分と判断せざるを得ないので、さらに補足していただく必要があると考えます。</p>
<p>3 事務等の効率化・合理化に関する目標</p>				
<p>< 中期目標 II-③ > 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。</p>	<p>II-③-1 第2期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成 28 年度に検証、31 年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。 < 総務課 ></p>	<p>II-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・様々な改善・改革がなされている。当該計画では「31 年度までに改善・改革を実施」となっており、現状までの改善・改革ほどの程度の達成状況なのか明らかにしていただきたい ・経営品質活動の取組について、その一環として各課・室で改善・改革活動が成されていることが窺える</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・H30 年度業務実績報告の作成時点において改めて整理した考え方に基づき、成果、エビデンスを示すことができるように、引き続き対応願いたい。 ・各課にて多数の業務の見直しが図られていることが理解できたのですが、これらの業務の見直しは各課からの事例を収集して終わりということでしょうか。期末の達成状況にある「PDCA サイクルが機能することで、活性化した事務局組織となる」ために、これらの見直し内容のフォローアップや評価をどのように図っていくか、次年度以降には見えてくるとよいかと考えます。例えば総務課の電子決裁の利用促進については、今回の進捗状況では実績が見えないので、次期以降に成果と検証について触れられるとよいのではないのでしょうか。</p>
	<p>II-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 < 人事労務課 ></p>	<p>II-③-2-1 II-③-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・進捗率 20% であるが、本年後半に職階別研修やスキル別研修が予定されている。当該計画では「事務局職員の職務能力の開発・向上」および「高度な専門性を有する多様</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・中期計画は、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修となっているが、そのような人材育成のための</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>な人材の確保やグローバル化に対応できる職員の育成」を目的としているが、そのような能力が向上したのか、人材が育成できたのか、それらを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ II-③-2-1 について、点検・検証・改善が行われていることは窺えるが、満足度が高い評価とは、何を基準として高い評価なのか分からない ・ II-③-2-2 について、<u>病院事務検討会開催後の成果（レベルアップや業務効率化）について具体例があれば、年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい</u> ・ II-③-2-1 については、別途確認した結果、「点検及び検証」の状況が検証できた。<u>年度末の入力時には、「点検及び検証」の状況を明記していただきたい</u> 	<p>研修が行われているか、確認出来ない。実績があるなら、それをエビデンスとして記載願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画：研修を実施する目的が、職務能力の開発・向上、職員の育成であるならば、研修の成果についても確認できると良い ・ II-③-2-1：研修が実施され、アンケートも実施されているが、点検・検証、具体の次回への改善については、言及されていない。 ・ II-③-2-2：情報交換はできているが、知識の向上による職員のレベルアップについての詳細が不明 <p>II-③-2-2 について、期末の達成状況には「収集した他大学の状況や情報の活用・フィードバック」とあります。11 月の検討会には各部門 2 名ずつの参加となっていますが、検討会で得られた情報を出席していない担当者と共有・フィードバックしているような事実等をお示しいただくとよいのではないのでしょうか。</p>
--	--	--	---	--

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

<p>< 中期目標 III-① > 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。</p>	<p>III-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 < 研究推進課 ></p>	<p>III-①-1-1 III-①-1-2 III-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ III-①-1-1 について、当初年度計画に予定された 1) および 3) の取組がなされていない ・ III-①-1-3 について、実績もともかく、<u>進捗状況の記載が優れている。今後の進捗状況の記載に際し、優れた事例となる</u> ・ III-①-1-1 について、<u>RA 活動従事者の妥当性評価や研究支援専門人材の研修・育成プログラムの参加実績の検証と見直し等が行われているのか否かが分からないので、年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい。また、このフレームは、外部研究資金の獲得でもあるので、取り組んだ結果、</u></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ URA 等の活動状況は分かるが、最終的にその活動が自己収入の増加にどのように繋がっているかを明確に願いたい。 ・ 中期計画：RA 活動は、研究活動の充実・強化に繋げ、自己収入の増加に繋げるための取組であるので、自己収入増のエビデンスとなるような取組とすべきではないか。 ・ III-①-1-1：RA 活動従事者数の妥当性評価がなされていない。研究支援専門人材の研修等参加実績の検証と見直しがなされていない。 ・ III-①-1-2：様々な取組により、寄附金額が増加しているが、検証されているかが不明。</p>
---	---	--	---	---

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p><u>資金獲得にどう及んだのかもお示し願いたい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-①-1-3 は、「進捗状況が良好である」 ・Ⅲ-①-1-1 の具体の取組の計画の 1 点目については、別途確認した結果、概ね良好と判断した。3 点目については、別途確認したものの「検証と見直し」が行われておらず、進捗状況が不十分と判断した。なお、<u>2 点目、3 点目については、特に「検証と見直し」の状況について年度末には明記いただきたい（2 点目については、ある程度読み取れる部分もあるが、より明確に記載をいただきたい）。</u>（進捗不十分） ・Ⅲ-①-1-2 及びⅢ-①-1-3 については、概ね良好と考えられる（進捗不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-①-1-1 について、年度末進捗状況の記載内容だけでは、これらの取組が学部資金の獲得にどのように良い影響を及ぼしているのかが見えないため、その観点もご記載いただければと考えます。 ・Ⅲ-①-1-3 については、具体の取組内容のその成果が十分に記載されており、成果の値も中間時から伸びており、「進捗状況が良好である」と判断します。
2 経費の抑制に関する目標				
<p>< 中期目標Ⅲ-② > 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 < 財務課 > < 経理課 > < 環境整備課 ></p>	<p>Ⅲ-②-1-1 Ⅲ-②-1-2 Ⅲ-②-1-3 Ⅲ-②-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-1 について、当初年度計画に予定された取組がなされていない。また、平成 26 年度役員会決定方針の見直しをとしているが、対象となる方針はすでに時機を逸したものではないか ・Ⅲ-②-1-2 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされている。なお、当該計画の K P I は「管理的経費等の削減により経費の抑制」であり、様々な取組みによって、全体としてどのくらい削減できたかを確認いただきたい ・Ⅲ-②-1-3,4 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされており、成果もあがっている ・Ⅲ-②-1-1 について、人件費改革の取組が進んでいるのか、検討もしていないのかが分からない。<u>ここのフレームは、経費の抑制であるので、人件費削減のための新たな取組があれば、年度末の進捗状況入力の際にお示し願いたい。</u> 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費改革について、他に実績があるなら記載願いたい。 ・中期計画：中期目標の、経費の抑制のための人件費改革についての取組が必要ではないか。 ・Ⅲ-②-1-1：結果として見直しがされているが、経緯や検討の状況が不明。 ・Ⅲ-②-1-2：コスト削減に向けて、契約仕様等の見直し、電子化の推進の取組がなされているが、クレジットカードのポイントの検討、環境 ISO との連携等の実施が不明。 ・Ⅲ-②-1-4：後発医薬品の目標値を達成し、経費削減ができていますが、医療材料・機器の規格統一化等による経費削減はどうか。 ・Ⅲ-②-1-1 について、人件費改革に取り組むとしていますが、進捗状況の記載内容ではこれまでの制度をただ踏襲しただけで、改革に向けたアクションを何も起こしていないのではないかという印象を受けます。中間時には「職種毎のポイント数の設定及び未使用ポイ

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2 について、クレジットカードポイントの利用や環境 ISO との連携が進んでいるのかどうか分からない ・Ⅲ-②-1-1 については別途確認して状況が多少分かったが、<u>年度末の入力時には「必要に応じて見直しを行う」の状況を明記いただきたい。</u>（見直しの必要が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい）（保留） ・Ⅲ-②-1-2 の経理課の 4 点目の計画「環境 ISO ～」については、別途確認したものの、「学内周知」の状況が分からなかった。<u>年度末の入力時には、具体の取組の計画に挙げている事項については、進捗状況を明記いただきたい</u>（保留） ・Ⅲ-②-1-3 については、<u>15%削減目標のところ 10%の削減にとどまっているとのことであり、進捗状況が不十分と考えられる（電気代の高騰などによって、致し方ない部分があるのであれば、記載をいただきたい）</u>（保留） ・Ⅲ-②-1-4 については、<u>具体の取組の計画に記載のある「規格統一化による経費削減」の状況について記載がない。</u>年度末の入力時には「規格統一化による経費削減」の状況について必ず明記をいただきたい。（保留） 	<p>ントに係る還元額の妥当性について、検討しているとのことでしたが、これらの検討状況はいかがでしょうか。現段階では「進捗不十分」と判断せざるを得ないと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2 について、クレジットカードのポイント付加の件と環境 ISO との連携の件については進捗状況に記載がなく、評価ができません。 ・Ⅲ-②-1-4 について、平成 30 年度取組計画に記載のある「医療材料・機器の規格統一化等による経費削減」に関する明らかな既述が進捗状況上読み取ることができないので、追記をお願いできますでしょうか。
--	--	--	--	---

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

<p>< 中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 < 経理課 ></p>	<p>Ⅲ-③-1-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
	<p>Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 < 施設企画課 > < 経理課 ></p>	<p>Ⅲ-③-2-1 Ⅲ-③-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント） ・Ⅲ-③-2-2 について、当初年度計画に予定された取組が十分なされており、成果もあが</p>	<p>（コメント） ・施設等の学外者への有償貸付けに関し、研究系の施設、機器の活用、収入増については</p>

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>っている。また、<u>定量的データも随時フォローされており、進捗状況が検証しやすい。</u>なお、当該計画の様々な取組みによって全体としてどの程度自己収入が増加したのかを示すデータも添付いただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画した取組が成されており、増収が期待される ・Ⅲ-③-2-2 について、貸出料金の減について別途確認したところ、大口先の使用回数減によるもので、広報の充実活動の影響では無いとのことであったが、その根拠は分からなかった（広報が充実して新規利用が増えていれば、貸出料金が減らなかったのでは、など、広報の充実活動の影響があった可能性もあると思われるが、その点で納得できる記載は無かった）。計画に「<u>施設等のさらなる有効活用について検討する</u>」とあるため、<u>実績を踏まえ、有効に活用できているかどうかの分析と、分析を踏まえた対応策についても記載をいただきたい（言うは易しで簡単なことではないかもしれませんが、経理課としてのお考え（論拠）は記載をいただきたい）</u>（保留） 	<p>成果の確認が出来るが、それら以外での収入は減となっており、収入増に向けての具体的な取組が必要ではないか。前回コメントにもあるように、検討結果、具体的な取組内容を記載願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-③-2-1：スペースの有効活用については、調査がなされ、学長管理スペースとして確保し、有効活用として再配分がなされているが、既存の全学共同利用スペースについては、利用実績があるが、有効活用ができていないのか不明。 ・Ⅲ-③-2-2：機器利用者、利用料金が増加しているが、施設紹介にパノラマ写真は 1 つしかなく、広報の充実が図られているか不明。他大学の情報収集及び、さらなる有効活用についての検討状況が不明。 ・Ⅲ-③-2-2 について、評価にあたり、Ⅲ-③-2-2 について、年度末段階での施設貸出件数及び貸出料金の値の推移（年度計画の黄色枠内には記載がありますが進捗状況欄にも記載ください。）と増減の要因分析が必要かと存じますので、お示し願います。
--	--	--	--	--

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

<p>< 中期目標Ⅳ-①> 教育研究等活動の活性化に資する適切な評価制度の構築を推進する。</p>	<p>Ⅳ-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 <経営戦略課></p>	<p>Ⅳ-①-1-1 Ⅳ-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・分析結果を基にした資源配分ができたとするエビデンスを検討いただきたい ・Ⅳ-①-1-1 について、中期計画等の進捗管理のために、どのような形で見える化を考えているのかをお示しいただくとよい ・Ⅳ-①-1-1 について、この進捗状況評価の仕組みが機能していると思えない。計画に対する進捗が書かれておらず、進捗状況が把握できないケースが多すぎる。（進捗不十</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・実績について、教学 IR、研究 IR、専門職大学院設置の際の地域のニーズ収集、分析についても記載されると良いのではないかと ・Ⅳ-①-1-1：分析方法の改善についてはどうか ・Ⅳ-①-1-1 について、ファクトブックの情報収集及び情報共有の方法についてシステム業を交えて検討を行ったとあるが、具体的にどのように検討が進んでいるのか見えてこない</p>
---	---	----------------------------	--	---

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			分)	ため、追記いただけないでしょうか。
	IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 ＜人事労務課＞	IV-①-2-1 IV-①-2-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・IV-①-2-2 について、当初年度計画では制度の検証・見直しを行うことになっているが、該当する取組がなされていない（進捗不十分） ・IV-①-2-2 について、評価制度の検証が行われているのか。或いは、現在は見直す必要性がないため、検証を行っていないのか ・IV-①-2-2 について、「必要に応じて見直しを行う」の状況について別途確認し、概ね良好であると判断した。年度末の入力時には「必要に応じて見直しを行う」の状況を当初から明記いただきたい。（見直しの必要が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい）。	(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・検討段階としかとれない。 ・IV-①-2-2：検証や見直しの状況はどうか ・IV-①-2-1 について、取組に掲げている「評価結果に基づいた人事への処遇反映」に関する既述が年度末進捗状況欄には見受けられません。 ・IV-①-2-2 について、中間時に記載されていた「評価期間中に異動があった場合の手続きの改正」は年度末段階でも今後改善となっており、あまり進捗していない印象を受けます。
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標				
＜中期目標IV-②＞ 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。	IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポートレート等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 ＜広報室＞	IV-②-1-1 IV-②-1-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・IV-②-1-1 について、広範な広報活動がなされているが、当初年度計画であげた「大学ポートレートでの情報発信の検証・見直し」はどうなっているのか明らかでない ・IV-②-1-2 について、当初年度計画で予定している「情報発信の方法の再検討」、「新体制となった組織における教育研究活動等について～」に係る取組みはなされているのか明らかでない。特に、文科省提出年度計画では「必要な検証を行う」としており、具体的な検証がなされているのか明らかでない ・情報発信の実績とその成果を適宜あげていただきたい ・IV-②-1-1 及びIV-②-1-2 について、共に積極	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・本計画の担当は、経戦と広報になっているが、大学からの情報発信は殆どの部局で行われており、その中でも特徴的で効果の高いような取組を集め、記載した方が良いと思われるが。 ・IV-②-1-2：情報発信方法の再検討はどうか H28 新体制の情報公開の状況はどうか AAAS が提供するサービス活用の検討状況はどうか ・IV-②-1-1 について、広報室の記載内容からは様々な効果的と思われる広報活動の取組があげられており感銘を受けましたが、一方で本取組は「大学ポートレートの発信情報に関する検証と見直し、大学ポートレートについての認識を促すための周知活動策の検討」を

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<p>的な広報活動が成されている。年度末の進捗状況入力の際には、これらの広報活動による波及効果についてお教えいただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IV-②-1-1 について、進捗状況自体は概ね良好であると判断した。ただ、計画の「大学ポートレートでの発信情報について、随時検証を行い、必要な見直しを行う」の部分について別途確認したところ、「大学ポートレートは、大学からは決まった項目に情報を入れていくだけのものである」との回答であった。回答のとおりと思うが、それであれば、そもそも計画が不適切ではないか（大学ポートレートでの発信情報を大学で見直すことはできないのではないかと。ありうるとすれば、大学ポートレートで発信できる項目のうち、どの項目についてデータを登録し、どの項目についてはデータを登録しないか、という判断かと思うが、国立大学法人である以上、全項目のデータを登録する以外の選択肢はないのではないかと）。 ・IV-②-1-2 について、別途確認したものの、具体の取組の計画の1点目についての回答は無く、2点目についても、回答は「平成28年度～等について、広く社会に情報公開する」というもので実績が不明あり、進捗があったとは思えないため、進捗状況は不十分であると判断せざるをえない。（進捗不十分） 	<p>掲げており、進捗状況記載の各取組との関連性を読み取ることができませんでしたので、その点についての追記が必要かと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IV-②-1-2 について、取組に掲げている「前年度に実施した情報発信の方法の再検討」については何も記載されていないため、追記が必要かと存じます。 ・IV-②-1-2 について、ページビュー数の実績を記載いただいておりますが、前年度実績等がないため、多いのか少ないのか不明です。 ・IV-②-1-2 について、「EurekAlert」の活用についての検討状況はどうなっているのでしょうか。
--	--	--	--	---

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

<p>< 中期目標 V-① > 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実</p>	<p>V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。</p> <p>< 施設企画課 ></p>	<p>V-①-1-1 V-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・V-①-1-2 は中期計画Ⅲ-③-2 に相当 ・キャンパスマスタープランの策定やスペースの有効活用等によって、教育研究活動の活性化が図れたかどうかは、何をもって測るのか</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・スペースの有効活用について、本学の取組の状況が他大学に比較し、どの程度なのか、また、これによりどの程度、教育研究の活性化が図られたのかを、暫定評価までに明確に説明出来るよう準備願いたい。</p>
---	--	----------------------------	--	---

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

<p>を推進する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ V-①-1-2 については、別途確認した結果、「点検・見直し」の状況がある程度判明した。<u>年度末の入力時には、「点検・見直し」の状況を明記していただきたい</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ V-①-1-1：マスタープランの公表ができていますが、学長のリーダーシップがどの点（方針や対策等）で反映されたのか。 ・ V-①-1-2：計画書に基づいた改修、スペースの点検、有効活用の取組ができていますが、スペースチャージについてはどうか。 ・ V-①-1-1 について、キャンパスマスタープラン 2018 が本取組の達成に向けてどのような役割を果たしていくのか効果測定が難しいように感じるため、次年度以降の話になるかと思いますが、より具体的な施設の整備・活用及び老朽化対策の手法と成果を明らかにしていただく必要があると考えます。
---------------	--	--	---	--

2 安全管理に関する目標

<p>< 中期目標 V-② > 学生および教職員の安全管理を強化するための取組を推進する。</p>	<p>V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。</p> <p>< 人事労務課 > < 教務課 ></p>	<p>V-②-1-1 V-②-1-2 V-②-1-3 V-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当初年度計画で予定された取組がなされているが、当該計画の K P I は「法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少」であり実際に減少しているのかデータを示していただきたい ・「教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善」は具体的に なされているのか明らかでない ・文科省提出年度計画であげている松岡地区の巡回点検システムは改修されたのか明らかでない ・全体的に【成果】の記述はインプットであり、それによってどのような効果が得られたかを書いた方がよい。安全管理に関する自主的な点検や改善は行われているが、教職員の安全管理に関する意識が向上しているのかどうか分からない ・ V-②-1-1、V-②-1-3、V-②-1-4 については、別途確認して状況が判明したものの、<u>年度末の入力時には、見直しや改善の状況を明記していただきたい</u>（計画に記載した事項については、1 対 1 で進捗状況を記載して</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ V-②-1-1 松岡地区の院内安全衛生巡回点検システムの見直し・改修の状況はどうか ・ V-②-1-4：学生生活アンケートの結果対応の状況はどうか（特に安全に関するもの） ・ V-②-1-1 について、年度当初には「院内安全衛生巡回点検システムの見直し及び改修」「メンタルヘルス研修の企画・実施」に関する取組を掲げているが、年度末進捗状況欄には未記載となっております。中間時と内容変更なしでしょうか。メンタルヘルス研修は中間時にも参加者数や全教職員に対する参加率に関する記述がなく、どのように本取組の成果として位置づけられるのか不明です。 ・ V-②-1-1 について、巡回点検での指摘件数が結果的に増加しているため、進捗は不十分であるとしか判断できませんし、何を具体的に取り組んだのかが伝わってきません。</p>
---	--	--	--	--

平成 30 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント（様式）

			<u>いただきたい</u>	
3 法令遵守等に関する目標				
<p>< 中期目標 V-③ > 法令遵守等を徹底するとともに、危機管理機能の強化を推進する。</p>	<p>V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継続的な点検を行う。 < 監査室 > < 総務課 > < 研究推進課 ></p>	<p>V-③-1-1 V-③-1-2 V-③-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ V-③-1-3 について、<u>組織的に浸透したかどうかを、年度末の進捗状況入力の際にお教え願いたい</u> ・ V-③-1-3 について、別途確認して状況が分かったが、<u>年度末の入力時には「必要に応じ教育内容の見直しを行う」の状況を明記いただきたい。</u>（見直しの必要が無い場合もあると思われませんが、その場合はその旨を記載いただきたい）</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ V-③-1-2 : 研修の受講率が 60% であるが、問題ないか ・ V-③-1-3 について、e-Learning プログラムの受講率等が明確に記載されていないため、どの程度意識の浸透が図られているか判断としないように考えます。追記願います。</p>
	<p>V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。 < 学術情報課 ></p>	<p>V-③-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ 文科省年度計画にあげた「情報セキュリティポリシーや関連規程の組織への浸透～」に係り取組みがなされていない（進捗不十分） ・ 当初年度計画であげた「検討された施策に基づき計画を見直し実施する」に係り取組みがなされていない（進捗不十分） ・ 情報セキュリティ強化の面で、毎年、数千万円の学内資金が投入されているが、どのようにして強化を図っているのか（ハード面、ソフト面）をお教えいただきたい ・ 別途確認して状況が分かったが、<u>年度末の入力時には、実施内容を列挙するだけでは無く、「優先順位を定め可能なものから」実施できたかどうかを明記いただきたい</u></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ 中期計画：情報セキュリティ体制の充実強化の取組はどうか ・ V-③-2-1 : 色々と実施できているが、その効果・成果等はどうか。e-learning による教育・自己点検の受講率はどうか。 ・ 本文だけでは結局どの取組が優先順位として高いのか、高いものから実施されているのかどうなのかが不明です。 ・ 今年度を実施した事項が並んでいますが、本取組の成果が見えにくいように感じます。情報セキュリティ委員会で確認されたセキュリティ対策として実施すべき取組は何か、県警との情報交換で何が得られたのか、これらを整理して、実際にどのような取組を実施したのかといった点で記載をお願いできれば幸いです。</p>